



第 94 号

公益財団法人 黒田奨学会

総裁 黒田長高 様 近況報告

総 裁 黒 田 長 高



令和5年になり、コロナ禍についてはやっと落ち着き始め、この3月にはマスクの着用は本人次第ということになり、連休明けには5類ということになりましたが、周囲を見ると殆どの方がまだ着用しています。

以前ほどではないにしろ、まだまだ不安が多く安心はできないので、なかなか手放せない人がほとんどだと思います。

それでも昨年ぐらいいから様々なイベントが復活してきており、今までの暗い雰囲気から生活の中にマスク越しでも明るい雰囲気が出てきているようです。

さて、私も平常年は毎年4~5回ほど訪福しておりますが、去年は「黒田長政公」没後400年になることもあり、様々なイベントに参加してまいりました。

さすがに2月、3月の行事についてはまだ再開せず、黒田奨学会の入学式と卒業記念会等はオンラインで行われました。

しかし4月、5月に福岡、10月に関ヶ原、福岡、11月に福山、姫路でと、黒田家関連の行事に参加してまいりました。

その中でも関ヶ原町において催された「大関ヶ原祭2022」の「関ヶ原夜想語り」は竹下景子さんの朗読のもとでオペラ詠唱等があり、とても印象的でした。

有料にもかかわらず満席で、終了後の花火も壮大なもので、岐阜県関ヶ原町が如何に観光名所として力を入れているか、伺えました。

本年の訪福のトップは令和5年2月12日、東長寺で行われた黒田忠之公の法要への出席でした。続いて2回目が、令和5年3月21日に行われた黒田奨学会の入学式、卒業式への出席でしたが、こちらは3年ぶりに対面で行われ、希望に満ちあふれた奨学生達の顔を見ることができたことは、総裁としても非常に嬉しく、彼らの今後の活躍を期待したいものです。

そして、本年も数々の行事に参加することになりそうですが、体調を崩さぬよう気を付けたいと思います。

通常は仕事を終えた後、週に3日ほどジムに通って身体を動かしております。これが多いかどうかは別として、自分では体を動かさないと前に向けられないように感じております。

特に普段歩く時間が少なくなっているためもあり、私には必要な時間でもあります。



瑞藤会の皆様も健康管理には充分留意されますよう、そしてまたお会いできる日を楽しみにしております。

令和5年3月21日 黒田奨学会入学式で
ご挨拶される長高様

目 次

総裁 黒田長高 様 近況報告

総 裁 黒田 長高

修了および卒業に際しての謝辞

博士・修士課程修了生より 1

学士課程卒業および修士課程入学生より 5

新奨学生より 11

トピックス

末田美和さん、古賀一成さんが博士号取得！ 20

京都大学工学部物理工学科2年の才田隼輔君が
Kingfisher Global Leadership Programの参加メンバーに
選ばれました！ 20

留学生より近況報告

ミラノより近況報告 21

オーストラリアより近況報告 23

行事報告

令和4年度 奨学生卒業記念式 24

令和5年度 奨学生入学式 26

令和4年度 関東地区研修会 28

公益財団法人黒田奨学会に対する寄付御礼および重ねてのお願い ... 31

令和4年度奨学会基金への寄贈者 31

令和5年度 黒田奨学会行事予定 32

編集後記 33

関東地区研修会・発表抄録集 34

修了および卒業に際しての謝辞

【博士・修士課程修了生より】



九州大学大学院理学府・物理学専攻博士後期課程 古賀 一成

黒田長高様、ならびに黒田奨学会の皆様、9年間もの長い間支援していただき、ありがとうございます。9年間集中して学業に打ち込むことができたのは、黒田奨学会の支援のおかげです。私は博士の学位を「準固有振動と真空崩壊における触媒効果によるKerr-AdS5時空の研究」というテーマで取得しました。これだけだと何の研究かわからないと思いますが、簡単に言うと、我々の宇宙は、本当は4次元空間から出発しており、その4次元空間に回転するブラックホールが存在する場合の宇宙について詳しく調べた研究です(出発点が違うだけで、最終的にできる宇宙は我々の宇宙です)。我々が感じる空間は3次元なので、1つ自由度が高い空間を考えています。自由度が高い状況を考えることで、“いい感じ”に宇宙の創生を議論できるのがポイントです。ただ、いい感じに議論ができたとしても、この方法で創生する宇宙が我々の宇宙と一致するかどうかはわからず、私は特に4次元空間に回転しているブラックホールが存在する場合について研究をしました。その結果、4次元空間に回転しているブラックホールが存在する場合において宇宙が創生できる条件などを明らかにすることができました。細かい条件などはさらに議論をする必要がありますが、今後の研究の基本となる部分についてはうまくまとめることができたと思います。

私はもともと小学生のときから広く宇宙に興味を持っており、宇宙のことをもっと知りたいという、漠然とした好奇心を持っていました。この漠然とした好奇心が、中学、高校と知識を獲得していくことで理論物理を用いて宇宙の研究を行いたいと思うようになりました。博士課程に進学したタイミングでコロナ禍が始まるなど、思うように研究ができず、心が何度か折れてしまいましたが、黒田奨学会の方々のアドバイスや支えによって戻って来ることができました。宇宙の謎を解き明かしたいという好奇心を忘れることなく持ち続け、このような博士論文として成果にまとめ、発表することができ、とてもよかったと思っています。私は学部1年の時から黒田奨学会の支援を受けており、合計で9年間支援していただきました。これはおそらく同期の末田さんと並んで最長だと思います。9年前の入学式典のときはものすごく緊張しており、こんなすごい人たちの中でやっていけるのか不安でしたが、良い意味で奨学会の仲間たちに刺激を受け、高いモチベーションを持ち続けることができました。

この3年間は対面での研修会が開催されませんでした。研究発表のあとの懇親会を毎回楽しみにしていました。研究発表しているときは厳しい質問などが飛んで来ますが、懇親会では、ざつぱらんに様々な話題で盛り上がり、厳しさと優しさのメリハリがあり、奨学会の皆様の温かさを感じていました。今後はそれが無いと思うと寂しく思います。

これから私は社会に出て働いていくので、これまで学んで身につけた研究遂行能力を最大限に発揮して社会貢献に活かしていきたいと思っています。

改めて9年間もの長い間、支援していただきありがとうございました。

九州大学大学院工学府・機械工学専攻博士後期課程 末田 美和

黒田長高総裁、伊達健太郎理事長をはじめ、黒田奨学会の皆様には9年間本当にお世話になりました。学部4年間、修士課程2年間はもちろんです。博士後期課程まで修了できたのはひとえに黒田奨学会の皆様のおかげです。本当にありがとうございました。また、先月には卒業・修了記念式典を開催していただき、ありがとうございました。3年ぶりに皆様に対面でお会いできて大変嬉しかったです。

学部から博士後期課程までの9年間、黒田奨学会の皆様には金銭面だけでなく、たくさんのことを与えていただきました。

修士課程までの6年間は対面での行事が多く、行事の度に奨学会の方々や先輩方からお話を伺うことができました。勉強に関するお話だけでなく、社会人としての心構えや人として生きる姿勢、時折福岡に関する面白いお話を教えていただきました。入学した当初に、「『勉強』だけが勉強ではない」とお伺いし、これまで学業のことしか考えていなかった私にとって視野を広げるきっかけとなりました。皆様のお話は大変貴重で、お会いできるのがとても楽しみでした。

博士後期課程の3年間はコロナ禍真只中で、なかなか皆様と対面でお会いできる機会がありませんでしたが、事あるごとに励ましのメールをくださったり、オンラインの面談では貴重なアドバイスをいただいたりと、会えなくてもたくさんのサポートをしていただきました。博士後期課程の3年間は修士課程までの6年間よりも思い通りにならないことが多く、自分の力不足を感じて挫けそうなこともありました。このような状況下でも、皆様の温かい言葉にたくさんの力をいただき、3年間やりきることができました。

改めて振り返ってみると、9年間も在籍できてとても幸せだったと感じております。皆様に教えていただいたことが、今の私を間違いなく形成しております。黒田奨学会の皆様にお会いできて、また瑞藤会の一員になれて本当に嬉しかったです。

4月からは埼玉大学理工学研究科の助教として勤務しております。今は私も学生を指導する立場ですが、黒田奨学会の皆様にとくさん与えていただいたように、私も学生に与えられる教員になりたいと思っております。研究者として研究成果を出すのはもちろんですが、黒田奨学会の皆様のように、学業面だけでなく人格面でも優秀な人材を輩出できる教育者となり、社会に貢献できるように頑張ります。

東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻修士課程修了 稲富 翔伍

この度、東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻修士課程を修了いたしました。学部から継続して黒田奨学会にご支援いただき、修士課程においても研究活動や進路検討に集中することができました。修了の節目に際しては盛大な卒業式を開催いただき、大変嬉しく思うとともに、長高様や多くの先生方・学生に支えられているということを改めて実感いたしました。

さて、修士においては橋梁維持管理についての日頃の研究活動に加え、就職活動や課外活動など新たな体験をしました。就職活動においては、私自身のこれまでの研究や学業に合わせてどのような職に就くべきか苦悩しました。土木の専攻に所属しているものの、研究テーマがAIをはじめとする情報系の内容であり、表層的な業種に囚われる必要はないと感じていました。周りの友人が次々と進路を決定する中で焦りもありましたが、伊達先生をはじめとする先生方に、情報分野でも活躍できるのではないかと後押しを受け、また目の前のことに集中すると見えてくるものがあるとアドバイスを受けました。その後新たにインターンシップに参加するなど検討を進め、最終的に就職ではなく研究を深めることとしました。当初、進学は考えてもみませんでしたでしたが納得いく選択となっています。

また課外活動として、イノベーション教育プログラム i.schoolに参加しました。ここでは様々な所属の学生が参加し、イノベティブなアイデアを創出する手法を実践的に学びました。アイデア発想を行う際の思考の枠組みについて整理することができ、またアイデアを一人の天才で考えるのではなく、集団で考えるためのステップを習得しました。さらに、単にアイデアを作るだけでなく、それをビジネスとして実現するための戦略や、スピード感が求められるスタートアップの心得について起業家と話をする機会を得ました。以前は、起業は遥遠い存在でしたが、実態を知ることによって私自身の今後の可能性を広げることに繋がったと感じます。

このような様々な体験を後押しいただいたこと、また博士課程でも引き続きご支援いただけることに感謝申し上げます。引き続き、ご期待に沿えるよう邁進していく所存です。今後ともよろしく願います。

東京大学大学院理学系研究科物理学専攻修士課程修了 塚本 恭平

この度大学院の修士課程を卒業し、黒田奨学会からも卒業することとなりました。大学院では、黒田奨学会の皆様のご支援のおかげで、金銭のためにアルバイトをする必要がなく、研究に集中して励むことが出来ました。また、私は学部において九州大学で物理学科を卒業後、東京大学大学院の物理学専攻へと進学いたしましたが、そのようなチャレンジをすることが出来たのは、修士2年度からは生活費のご支援もいただくなど、ひとえに黒田奨学会の皆様のご支援があったのおかげです。

黒田奨学会の行事に参加するたびに、自分の道を自分で考えて歩んでいる奨学生が多く、画一的ではなく、さまざまな奨学生・OBの方がいることに、多くの刺激を受けてきました。これからの社会人生活では、これまで以上に決まった道はなく、リスクをとってでも自分なりの道を決断していかなければならないと感じています。これから自分の道を選んでいくにあたり、私は、とてもありきたりな言葉になりますが、社会にとって本当に価値があると思うものを作り出すということを大切にしていきたいと考えています。世の中を見渡すと、自分の利益を最大化したいという欲に基づいて、世の中を必ずしも良くはしていないが、人間の需要を引っ張りだし、利益を得ているものもあるように見えます。もちろん、お金は生活のために重要です。しかし、自分はやはり、価値のあることをしていると自分で思えるときに心地よさを感じるので、綺麗事ではございますが、このことを心がけていきたいと思います。また、価値のあるものというのは、分かりやすい社会貢献やサービスだけではなく、世の中からは注目されていない細々としたことだったりもすると考えているので、幅広い視点で社会への価値というものを大切にしていきたいと思います。

最後になりますが、至らない点が数多くあったにも関わらず、奨学会の諸先生方はいつもあたたかく見守ってくださりました。本当にありがとうございました。

東京大学大学院工学系研究科電気系工学専攻修了 松藤 圭亮

私が東京大学で6年間の学業を全うすることができたのは、黒田奨学会の支援のおかげです。毎期の奨学金は家計にとって大きな支えとなりました。黒田奨学生に採用して頂いたことで、アルバイト等ではなく、心からやりたい勉強や研究に時間を割けるようになり、成績や実績が向上するという好循環を生み出すことができました。

私は、脱炭素社会を実装する研究者あるいは起業家になりたいと思い、修猷館高校から東京大学に進学しました。小さい頃にソーラークッキングをきっかけに、太陽エネルギーの可能性に関心を持ったことから、大学入学前に漠然と考えていたのは、太陽電池の研究者か、巨大な太陽光発電所を建設する起業家になりたい、などということでした。

大学での学びは、この期待を良い意味で裏切りました。研究室を訪問する中で気づいたのは、太陽電池を含むエネルギー関連の分野で、新たな動作原理を確立するような研究は稀であり、多くは0.1%の効率の向上を競うようなインクリメンタルな研究にとどまるという現実でした。また、再生可能エネルギーを社会の主要な電源とするには、単に太陽光発電や風力発電を増やしていただくだけでは必ず行き詰まる場所があり、自然の発電と人間の需要のバランスを絶えず保つ仕組み（フレキシビリティ）が必須となることを学びました。このことを端的に示すのが、電力系統における運動方程式（ $M \frac{dw}{dt} = P_m - P_e$ ）です。のちの指導教員である松橋教授の講義でこの方程式に出会ったときの衝撃は、今でも鮮明に覚えています。大学での専門的な学びを経て、エネルギー問題への理解と自らの志が、一段深まった瞬間でした。

松橋教授のもとで勉強する中で、アカデミアでは解決済みとされていても、実社会では放置されている問題があることに気づきました。その代表例は、電気自動車(EV)のエネルギーストレージとしての活用です。EVは、1台1台が巨大な蓄電池で、かつ膨大な台数が社会に普及する見込みです。これらEV群をフレキシビリティとして活用できれば、電力バランスを安定に保ちながらより多くの再生可

能エネルギーを導入することができます。このアイデアは2000年代から提唱されていましたが、充放電装置の初期コストや制御性能の課題が残り、2020年代になった今でも未解決です。

私はこの課題に取り組むたいと思い、2019年1月に学生プロジェクトYanekaraを始めました。2020年6月には株式会社Yanekaraとして起業し、2021年9月には東京大学のベンチャーキャピタル(VC)からの出資を受けてスタートアップとしての成長を始めました。大学の先生方や同級生、様々な企業や自治体のプロジェクトパートナーの皆様にお世話になり、製品開発を進め、事業化に漕ぎつけました。

今後は起業家として、社会における再生可能エネルギーの活用を加速させるとともに、黒田奨学会への寄付や参画を通じて、6年間のご恩に報いる所存です。

○東京大学総長賞受賞コメント

【受賞テーマ】東京大学の起業家エコシステムが育てた、エネルギー問題に挑むディープテック・スタートアップとしての、多方面にわたる実績

私たちが挑んでいるエネルギー問題は一朝一夕には解決できないものですが、だからこそやりがいがあります。研究と事業の両立を応援して下さった黒田奨学会の皆様へ、深く感謝申し上げます。



▲東京大学総長賞授与式（2023年3月15日、安田講堂、奥の右から3人目が本人）

東京大学大学院工学系研究科電気系工学専攻 吉清 秦生

この度、大学を卒業するまでの6年間に渡り、多大なるご支援とご指導をいただいた黒田奨学会の皆様へ心より感謝とお礼を申し上げます。この春から私は教育関係のベンチャー企業で働いていることもあり、本稿では私の6年間を振り返りながら、大学に通うことの成果と意義について考察しようと思います。

大学は教育機関としての側面と研究機関としての側面を持ちます。教育機関としての側面に着目すると、私が6年間で感じた成長には2種類あり、1つ目は専門知識の獲得です。私の学部ではコンピュータの構造、半導体の性質を学習しました。小さい頃から抱いていた、コンピュータはなぜ動いているのか、という純粋な知的好奇心を満たし、さらにその技術を発展させ、経済成長に繋げる術まで学びました。2つ目は汎用的な能力の向上です。自分で課題を見つけて、必要な情報を収集し、解決策を実行する能力が格段に向上したと感じています。こちらは学部、修士課程でのコンピュータプロセッサ演算速度向上に関する研究や、授業の一環で、室内の電磁波を可視化する装置をゼロから作り上げるなどの活動によって磨かれたものです。今後の人生においては、身につけた専門知識が直接には役に立たない場合も多く、こちらの汎用的な能力をどれだけ伸ばすことができたのかが、とても重

要になります。ただし、専門的な知識が必要ないというわけではなく、課題解決の取り組みを行う中で、専門的な知識の習得が必ず必要になり、結果として汎用的な能力が向上するという構造になっていたと理解することができます。さらに、こと研究活動に関しては、学生の課題解決能力を磨く体験を研究活動とすることによって、「まだ誰も行ったことがない課題を解く」、「対外的に発表できる質を保つ」という制約が生じ、学生の体験をお遊びではなく価値のあるものにし、モチベートすることに成功していると言えます。私も例に漏れず、主体的に研究に取り組み、大いに成長の機会を活かすことができました。

最後になりますが、今日まで数多くのご支援、ご指導をいただいた御恩を、これから社会に貢献するという形で返していきます。6年間本当にありがとうございました。

九州大学大学院工学府応用化学専攻修了 高岡 祐太

この度、九州大学大学院工学府を修了しました高岡祐太と申します。私の家庭の経済状況では、大学院へ進学するために日本学生支援機構の第一種奨学金の借入に加えて、長時間のアルバイトが必要でした。しかしながら、黒田奨学会のご支援をいただくことで、アルバイトに追われることなく、研究に専念することができました。心より感謝申し上げます。

私は、研究者として持続可能な社会の実現に寄与する技術を確立したいと考え、学部4年生から現在まで、二酸化炭素の変換に関する研究に取り組んできました。奨学金の支給のおかげで研究に専念でき、その成果を論文にまとめ、この分野で影響力のある査読付きの国際誌に掲載されることとなりました。領域に影響を与えることができる研究を報告できたと感じております。このような雑誌に掲載されたことも、奨学金のご支援のもとにできたことだと感謝しております。今後も、しっかり地道に研究を進めて、領域を発展させることができるような研究成果を世に送り出したいと考えております。

私は、これらの成果が評価され、九州大学大学院修士課程を一年早く修了することになり、来年度より博士課程に進学いたします。博士課程では、論文を最低でも2本は発表しなければなりません。そのため、限られた時間を有効的に使い、博士号取得に向けて研究を発展させていきたいです。加えて、私は未来を築いていく若者に対する教育にも携わりたいと考えております。それは、一人でも多くの科学者を育成していくことが、日本のみならず世界を変えることに繋がっていくという考えを持っているからです。今年、ティーチングアシスタントや、研究室を紹介する専攻の研修会に代表として参加することで、指導することや研究を伝えることの難しさを痛感しました。これらの経験を糧に、人材育成ができる教育者となれるよう、博士課程で努力してまいります。

改めて貴財団からのご支援を心より感謝申し上げます。

【学士課程卒業および修士課程入学生より】

九州大学医学部医学科卒業 石崎 菜々子

黒田長高様をはじめ、黒田奨学会には6年間、奨学金のご支援をいただきまして誠に感謝しております。ありがとうございました。

私は、幼少期から医師になりたいと考えて医学部を目指してきました。大学では夢であった医師になるべく、医療についての知識を深めてまいりましたが、医学部の試験は難しく、覚えなければならぬこともたくさんあったため、時には心が折れそうになることもありました。しかし、先生方と研修会や懇親会でお話するたびに、もっと頑張らなければと自分を奮い立たせることができました。

また、医師国家試験や就職活動に不安を抱えていた時にも「石崎さんなら大丈夫よ」と優しく励ましていただき、今年の2月にあった国家試験に無事合格することができました。

さらに、もう一つの夢であった世界一周旅行もこの春休みに卒業旅行として行くことができました。ヨーロッパ8都市、アメリカ2都市、オーストラリア2都市、アジア2都市を一ヶ月かけて巡り、様々な文化や人々に触れて、一生の思い出に残る経験をすることができました。それぞれの国の良さを知ることができ、国際的な視点を養うことができました。黒田奨学会のご支援なしでは絶対に達成することができなかつた夢だと思っています。

このように金銭面や精神面で黒田奨学会に支えられ、充実した6年間を過ごすことができました。本当にありがとうございました。

今後は、下関医療センターで2年間初期研修した後、福岡に戻ってリハビリテーション科医になりたいと考えています。九州ではまだまだ浸透していないリハビリテーションについて学び、それを福岡に還元することで社会貢献していきたいです。

コロナ禍で長高様や先生方とお会いする機会が減ってしまったのは大変残念でしたが、福岡に帰る際には事務所を訪れたいと思います。今後ともよろしくお願い致します。

九州大学文学部人文学科卒業 小倉 菜穂

この度、九州大学文学部人文学科を卒業いたしました小倉菜穂と申します。黒田長高様をはじめ、黒田奨学会の皆様には学部生活の4年間、多大なるご支援、ご指導を賜りまして、心より感謝申し上げます。卒業に際して4年間の大学生活を振り返ってみると、「黒田奨学会のご支援のおかげで良い方向へ進むことができた」と感じる場面が多々あり、改めて感謝の念を強く抱く日々です。

改めて思い返してみると、高校3年時の私は、黒田奨学会のご支援が無ければそもそも大学進学自体を諦めていた可能性も十分にありました。学業、友人、進路、今後の人生を豊かにする多くのものを手にする機会を頂けたこと、多くの経験に繋がるスタートラインに立たせていただいたことに、深く感謝いたします。

大学生活を振り返るなかで、経済的なご支援以外に特に大きな恩恵を受けたと感じているのが、年に数回開催される研修会です。学部1年の頃は、発表内容が未熟なうえ、先輩方の発表も意味を理解するだけでやっと、といった状態でしたが、先生方のご指導や先輩方の発表から学び、学部4年の段階ではある程度形になっていたかなと考えています。在学時は半ば年間行事のような感覚で自然に参加していた研修会ですが、改めて思い返すと、文理様々な分野の研究に定期的に触れることができる環境というのは、自分の学問のみに視野が狭まりがちな大学生活のなかでは非常に貴重なものであったと感じております。また、各奨学生が持つアカデミックな知識だけではなく、上手なプレゼンテーションの仕方、パワーポイントの有効活用方法など、汎用的なスキルに関してもご指導いただいたことは、今後社会人として成長していくうえでとても心強い経験となっています。

最後になりましたが、黒田奨学会の奨学生としてあたたかくご支援、ご指導いただいたことに改めて感謝申し上げます。4年間本当にありがとうございました。そして、これからは瑞藤会の一員として、誇りをもって社会貢献に努めて参ります。今後ともよろしくお願い申し上げます。

九州大学法学部卒業 首藤 春風

この度九州大学法学部を卒業いたしました、首藤春風と申します。4年間、黒田長高様をはじめ、奨学会、瑞藤会の皆様には大変お世話になりました。ありがとうございました。

以前の事務所において、非常に緊張しつつ面接を受けたのが大分前に感じる一方で、大学生活4年間はあっという間でした。2年生からは新型コロナウイルスの影響で不安定な大学生活となりましたが、学問や勉強に集中することができたのはひとえに黒田奨学会のお力があったからだと思っています。

私は授業や試験がオンラインになったことで、緊張感を保つことや「頭に入れる」ことが対面の時

よりも難しくなってしまう、学んだことが身についているのか、不安になるときがありました。しかし、オンラインであっても奨学生の皆様の発表には変わらない専門性と矜持を感じ、大変刺激を受けることができました。

また、研修の際に行われる理事の先生方との面接には毎回緊張しておりましたが、そこで「緊張しながら話す」ということに慣れたおかげで、就職活動の際には落ち着いて面接を受けられたように思います。

研修会や懇親会を対面で行うことができなかつたことは残念でしたが、卒業式を対面で行って頂いたことが大変嬉しかったように、今まで当たり前であったことに対して喜びを感じられるようになったように思います。

その一方で後悔していることもあります。毎月の近況報告を意味のあるものに出来なかつたということです。卒業式の際に松藤さんが「近況報告の度に目標の設定と達成の確認をした。」とおっしゃっているのを聞き、なんとなく毎月の報告をしてしまっていた私は目から鱗が落ちる思いでした。今後は近況報告という絶好の機会はなくなってしまうかもしれませんが、細かに目標を設定することを意識しようと思います。

4月からは地元である福津市の市役所職員となります。市民の方や周りの方とのコミュニケーションを大切に、物事に柔軟に対応できる職員になりたいと考えています。瑞藤会の皆様の中にも公務員の方は多くいらっしゃるからお聞きしているため、是非お話をさせて頂きたいです。理事の先生方や瑞藤会の皆様にお会いした際に明確に「〇〇という面で社会貢献しています。」とご報告できるよう、今後も精進いたします。

九州大学文学部人文学科卒業 高瀬 佳奈

はじめに大学4年間、黒田奨学会には物心両面で多大なる支援を賜りましたこと、心より感謝申し上げます。経済的な援助はもちろん、新型コロナウイルス感染症の流行に伴う活動制限によって大学、アルバイト、部活動などすべてのコミュニティでの人間関係が希薄化し、感じる孤独の上に世の先行きが読めない不安が重なる中で、折々にいただいた先生方の応援や心配は、大きな心の支えとなりました。また、一定以上のGPAが求められたこと、月・学期毎の報告提出によって自省を促されること、何より社会貢献を求められる黒田奨学会の奨学生であるということによって、感染症流行による活動の停滞の中でも、勉学に対するモチベーションを維持し、不自由な中でも充実した学生生活を送ることができました。黒田奨学会には感謝してもしきれません。

私はこの度、九州大学文学部を卒業し、福岡市役所に入庁しました。現在は、研修と配属先を歩き来して、公務員倫理や社会人としてのマナーを学びつつ、担当業務を行っています。毎日へとへとになり、働くことの大変さを実感する一方で、誰かの生活を支える仕事をすることの喜びを日々感じているところです。

私が地方自治体を就職先に選んだのは、行政にしかできないアプローチで、経済的・社会的立場の弱い人の生活を支え、豊かなものにしたい、という思いからでした。経済的支援を行い、金銭面の心配をせず、充実した学生生活を送れるように援助して下さった黒田奨学会の活動と、私が行政として携わりたい内容は通じる部分があるのではないのでしょうか。黒田奨学会の経済的支援のありがたさ、また、先生方の温かさにどれだけ支えられたかを忘れず、制度的な支援の充実に加えて、血の通った暖かい人間的な交流を重視し、市民の心の支えとなる職員を目指したいと考えます。

九州大学文学部人文学科卒業 中田 蓮太郎

この度、九州大学文学部を卒業しました中田蓮太郎と申します。私は福岡県の県立高等学校の採用

試験に合格し、4月からは母校の宗像高校で新社会人としての新たな一步を踏み出します。小学生の時から教員になりたいと思いつけて、遂にその夢を実現することができたのは、長高様をはじめとする黒田奨学会の皆様のおかげであると感じております。心より感謝申し上げます。

黒田奨学会の奨学生として過ごした大学4年間は今後の私の人生の中でも、印象的な4年間になったと思います。大学1年生の時、1年目にして最後となる対面での4回にわたる研修会では、社会貢献とは、大学で他分野を学ぶことの大切さ、他人に自分の考えを伝える方法など、様々な事を考え、学ぶ機会をいただきました。大学2年生からはコロナ禍に入り、大学の授業や奨学会の研修会がオンラインになり、サークル活動ができなくなるなど、なかなか思うようにいかない大学生活でした。当時は自分の不幸な境遇に気持ちが沈んだ時期もありましたが、今となっては「物は捉えよう」だと感じています。コロナ禍における日常生活や学校生活の厳しい状況では、負の側面ばかりが目立ってしまいますが、私はコロナ禍だったからこそ、オンライン授業の可能性に気付くことが出来たと感じています。もちろん、オンライン授業が完全に良い授業形態と断言したいわけではありません。オンライン授業の良い点を上手く活用すれば、地域における教育格差の解消、主体的で協働的な深い学びの実現など様々な効果を発揮できると感じました。これはコロナ禍でなければ気づくことが出来なかったことなのかもしれません。厳しい状況の中で試行錯誤した結果を、4月からの学校現場に還元することが出来ればと考えております。

最後になりましたが、4年間という長い間、そしてコロナ禍という厳しい状況の中で、数多くのご支援、ご指導をいただきました長高様をはじめとする黒田奨学会の皆様へ改めて感謝申し上げます。本当にありがとうございました。今後は、教員として社会貢献に励むことで、これまでいただいたご恩に報いることができるよう精進してまいります。

京都大学経済学部経済経営学科卒業 原 知輝

4年間、経済的支援をはじめ、さまざまな面においてサポートしていただき、誠にありがとうございました。世間知らずで未熟者であった私が、無事に4年間で京都大学を卒業できたのは、黒田奨学会の皆様が存在があってこそでした。特に、毎年開催される研修会では、自分とは馴染みのない分野の発表を聞くことができ、さまざまな知見を深めることができました。私は文系・経済学・会計という、どちらかというところ少数派のような立ち位置であったため、自分の発表をわかりやすく簡潔に説明する力が求められ、実際に磨くことができた実感しています。惜しむらくは新型コロナの影響で対面開催ができず、懇親会にほとんど参加できなかったことですが、それでも私にとっては貴重でありがたい経験となりましたし、実際にこの経験で養った力を他の活動で活かすこともできたと感じています。

京都での大学生活は非常に有意義な時間でした。学生の街と呼ばれる京都は、鴨川のような自然豊かな風景も、河原町のような繁華街もどちらも備わっており、電車一本で大阪、神戸に行くことができるなど、非常に恵まれた場所でした。このような環境で大学生活を過ごすことができただけでなく、周囲の人間関係にも恵まれた4年間でした。学業・就活ともに切磋琢磨できる友人も数多く作ることができ、先輩方にもかなり可愛がってもらえたと感じます。また、アルバイト先の上司の方々や、ゼミの教授など、優秀で人生経験豊かな方々にもお世話になり、さまざまなことを教えていただきました。

4月からの社会人生活では、モチベーションを失わず、常に行動し続けることを大切にしたいと思います。そのためには、人間関係を大切にしつつ、常に目標を持って臨むことが必要不可欠です。例えば、現時点での目標として、1年目は英語力の向上、3年目は証券アナリスト合格というように、漠然とですが目標を決めて取り組みたいと思います。また、目の前の業務に真剣に取り組むことも忘れてはいけません。英語勉強や資格勉強ももちろん大事ですが、自分に課せられた責任はしっかりと果たせる人間になりたいと思います。こうした抱負を忘れずに、一日一日を大切にしながら、一流のビジネスパーソンとして社会に大きなインパクトを残せる人材を目指して精進していきます。最後になりますが、4年間本当にありがとうございました。今後とも見守っていただけると幸いです。

九州大学工学部電気情報工学科卒業 山田 健太

この度、九州大学工学部電気情報工学科を卒業いたしました。黒田長高様をはじめ黒田奨学会の皆様には、大学での4年間、多大なるご支援とご指導を賜りまして心より感謝申し上げます。奨学会からのご支援のおかげで、大学での学びに集中することができました。

また経済的な支援だけでなく、研修会や面談などを通して多くの学びの機会を得られたことについても深く感謝いたします。特に、研修会については普段触れることのない分野の知識を学ぶことや、様々な創意工夫が込められた発表を聴くことで良い刺激を受けることが出来、毎回非常に楽しみにしていました。また、自分が発表する時には、どのようにすれば自分の分野の知識を聞き手にわかりやすく伝えることができるのかを考える良い機会となりました。さらに、小田部先生から発表に関してフィードバックをいただくことで、見やすいスライドの作り方や発表の際の姿勢や目線などについて学ぶことができ、また、質疑応答などを通して、私には、発表の中で必要のない補足情報を加えたり、説明していない専門知識をいきなり出したりして、発表を分かりづらくしてしまう癖があるということに気づくことができました。研修会で学んだことは卒論発表の際に非常に役立ちましたし、今後の学会などでの発表でも必ず生きてくるものだと思います。

私はこの春から、九州大学大学院システム情報科学府電気電子工学専攻に進学いたします。学部生のときは、SERSガスセンサというガスセンサを利用してガスの分布を可視化するという研究を行いましたが、大学院では、そのSERSガスセンサの作製方法を模索し、より簡便に作製できて高感度であるようなセンサを作製できるよう、研究を進める予定です。この研究で良い成果を出して、研修会などを通して皆様にお伝えできればと思います。

大学院でも引き続き奨学生として採用していただき、誠にありがとうございます。黒田奨学生としての自覚を忘れず、大学院でも勉学や研究に励んでいく所存ですので、今後ともご指導のほどよろしく申し上げます。

九州大学工学部電気情報工学科卒業 横山 健

この度、九州大学工学部電気情報工学科を卒業し、この4月から同大学システム情報科学府の修士課程として就学を継続いたします。私は久留米高専からの3年次編入生であり、2年間黒田奨学会に経済面、精神面で支えて頂きました。特に私の家庭は、父子家庭であり、黒田奨学会のご支援があったおかげで、アルバイトを必要とせず、大学生活を過ごすことができました。本当にありがとうございます。また、黒田奨学会には様々な成長の機会を設けていただきました。研修会では、様々な分野の発表を聞くことができ、知見が広がりました。また、違う分野の発表を聞くことで、分野に通じていない方に向けての伝え方や資料の構成方法など、自分の研究発表に活かせることが多く、大変勉強になりました。月に一度の現状報告でも、1ヶ月間を自分なりに振り返り、今後の目標をどうするかを報告という形でまとめることによって、目標を意識しながら日常生活を過ごすことができました。このおかげで、自分が今やるべきことや、できるようになりたいことを意識し、高専での研究分野と違う分野を大学で挑戦することができました。編入学前は、大学でも高専での研究経験を活かして画像認識の研究を続けようと考えていたのですが、勉強を続ける中で、AIやアルゴリズムの仕組みに興味があることが分かりました。アルゴリズムには計算量が存在し、問題によっては計算量的に現在のコンピュータによるアルゴリズムでは解けない場合があります。アルゴリズムと計算量の関係に特に興味を持ち、大学では、コンピュータで解ける問題と解けない問題の違いを数学的に分析する研究を行なっています。分野を変えることは少し怖さもありましたが、挑戦しがいいのあるテーマで、忙しいながらも楽しく充実した研究生生活を送ることができました。大学生活の時間を勉強に割くことができ、自分が本当にしたい研究が何かをじっくり考え、興味を持って全力で取り組めるテーマを決めることができたのは、黒田奨学会の支えがあったからだと思います、本当にありがとうございました。

そして、社会に貢献できる人材になれるように進学後も精一杯努力したいと思いますので、これからもよろしくお願ひします。

東京農工大学工学部生命工学科卒業 朽網 桃香

この度、東京農工大学工学部生命工学科を卒業し、この4月からは同大学工学府生命工学専攻の修士課程に進学することになりました朽網桃香です。私は有明高専から東京農工大学に3年次編入学し、奨学生として採用いただき、卒業までの2年間ご指導ご支援を受けることができたのは、本当にありがたいことでした。

振り返ってみると、普通の大学生とは違った経験を通じて自分の成長を感じることができた2年間でした。特に研修会では、目標や夢を持った他の奨学生たちの熱い発表にとっても圧倒されながらも、自分とは異なる学部や学科の研究内容や知識に触れることができ、大変刺激を受けました。他分野を専攻する人たちに自分の学んでいることを説明することで、専門用語をなるべく使わず分かりやすく説明するという経験だけでなく、自分の学ぶ専門分野がどのような意義を持つかについて、広い視野で捉え直す良いきっかけとなりました。

私が3年次編入学をした年はコロナ真只中だったため、新しい環境で孤独を感じることはありましたが、黒田奨学会の方々を支えられているという安心感と、社会に貢献しようと日々努力している奨学生たちの存在を背後に感じることができたため、私も頑張ろうと、とても心が支えられていました。また、普段の大学生活では、自分の置かれている今の状況にばかり集中して視野が狭くなりがちですが、報告書の提出や面談を通じて「自分は将来どのような形で社会貢献したいのか、できるのか」について意識する機会が増えました。この意識を持つことで、自分が社会に還元している姿をイメージしながら大学生活や研究生活を送ることができ、視野が狭まりがちな状況から一步引いて全体を俯瞰できたことで、考え方や行動を意識して変えることができたと感じています。

これからも奨学会を支えているの方々への感謝を忘れずに、どのように社会に貢献するかを常に考えながら、勉学や研究に一生懸命取り組みたいと思います。この2年間のご支援に改めて感謝いたします。

九州大学理学部数学科卒業 矢ヶ部 稜

大学生活、コロナで制限されたように見えて、思い返してみるとさまざまなことを経験しました。大学1年時はコロナ前であったため、サークルの新歓から始まり、サークル活動、対面での授業、学部の友人との飲み会、そして1年生終わりの春休みにはフランスへ旅行をするなど、“普通の”大学生活を送ることができました。2年生ではコロナウイルスの感染拡大により、不要不急の外出を控えなくてはなくなりました。春休みはGWまで延長され、その後始まった授業は全てオンラインとなりました。大学3年生は対面の授業が始まりましたが、コロナ対策ということで大学に来る際にマスクは必須でした。大学4年生ではゼミだけだったため、ほとんど大学には通わず、就活やアルバイト、ニューカレドニアへの旅行もしました。このようにずっと大学生活を思い返すだけでも、まさに激動の4年間であったと感じます。よく、思い出は楽しいものほど残ると言われますが、私はこの大学生活での辛い経験もたくさん記憶に残っています。大学1年時に入ったサークルでは周りあまり馴染めず、どうしたらスムーズに辞められるかを考えていました（結局コロナの“おかげ”で自然と辞めることができました）。大学へは片道2時間半ほどかかり、通学や帰宅がかなり大変でした。オンライン授業では、最初は友人や教授とのコミュニケーションが取りづらく、授業内容を理解することが大変でした。しかし、このような辛い経験は全て、就活の際に役に立ちました。黒田奨学会の学生には、自分なりの社会貢献の仕方をしっかりと考えている人が多いです。そんな中、私は正直、自分が何をやりたいのか、どのように社会貢献をしていきたいのか分からずにいました。しかし今私は、「人の

移動時間や待ち時間を限りなくゼロにする。」という目標を持ち、そのために一歩ずつ進んでいこうと思っています。このような目標を持てたのも、上記のあまり楽しくない思い出があったから、そして、意識・レベルの高い仲間や先生と、社会貢献を常に考え続ける黒田奨学会という場があったからこそだと思います。金銭面や精神的に支えられたのはもちろんですが、私は、「目標を持たせてくれた」という面でも、黒田奨学会に感謝しております。4年間本当にありがとうございました。

新奨学生より

Welcome to KURODA SHOGAKUKAI

大学院特定枠奨学生

九州大学大学院経済学府経済システム専攻 庄田 朋申



九州大学経済学府経済システム専攻修士1年の庄田朋申(しょうだともみ)と申します。この度は、黒田奨学会大学院特定枠奨学生の一員としてご採用いただき、誠にありがとうございます。歴史のある黒田奨学会・瑞藤会の一員になれたことを大変光栄に思っております。

私は環境経済学を専門とする研究者を目指し、カーボンニュートラルの実現に貢献したいと考えております。私は家の事情で、3歳(2003年)から17歳(2017年)まで中国で過ごしました。この14年間、中国は更なる経済発展を成し遂げ、国民の生活が裕福になっていくことを実感しました。その発展の要因は、「改革開放」による国際貿易の繁盛と海外からの投資の増加でした。私は、中国のように、他の途上国の人々がより幸せな生活を暮らせるように、自由貿易を促進する貿易政策の制定に関わりたいと志しました。しかし、西洋経済史の授業では、すべての国が先進国になれるわけではないことを知りました。資本主義の世界経済の構造の下では、生産技術の劣った途上国は原材料輸出や単純作業など、利益の少ない生産活動を担っていて、労働者は安い賃金で労働を強いられている状況になってしまうことが多いからです。また、環境経済学の授業では、空気汚染が人々の健康にどれほど大きな影響を与えているかを理

解し、発展は必ずしも幸せに結びつくわけではないと改めて認識しました。人々がより良い暮らしができるよう、私に何ができるのかを悩んだ末、環境経済学を専門とすることにしました。中国の現地校で12年の教育を受け、日本で大学教育を受けた私は、資本主義と社会主義の対立・先進国と途上国の対立を誰よりも実感しています。社会のあらゆる側面にこのような対立が溢れている中、環境保全はすべての対立を上回るような重要な課題だと気付いたからです。

私は、大学院では、国際貿易由来CO₂削減のための環境政策を提言したいと考えております。私の研究は、グローバルサプライチェーン(以下GSC)ネットワーク分析と海運ネットワーク分析を融合させた新たなGSC分析フレームワークを開発し、貿易統計などを用いて、GSC由来のCO₂排出量の実態を解明するとともに、その削減ポテンシャルを評価します。GSC生産プロセスの脱炭素化、及びそれがもたらす海運ネットワーク変化に基づく効果的なCO₂排出削減策を同時に考慮することができるため、本研究が世界各国の「2050年カーボンニュートラル」目標の達成に貢献すると確信しています。

私は、黒田奨学会のご支援のもと、各分野で活躍されている黒田奨学会・瑞藤会の皆様とのご縁を大切に、社会に貢献できるような優秀な研究者を目指し、日々精進していきたいと思っております。今後ともご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

九州大学大学院理学府物理学専攻 谷口 彰



この春、九州大学大学院理学府物理学専攻に進学いたしました谷口彰と申します。この度は、黒田奨学会の奨学生にご採用いただき、誠にありがとうございます。長い歴史と伝統のある黒田奨学会の奨学生及び瑞藤会の一員になれたことを光栄に思うとともに、より一層、日々の研鑽に励んで参りたいと思います。

私は、大学の学部4年間で物理について勉強し、宇宙理論の分野に強い興味を持ちました。その中でも、現在は重力波という現象に興味があります。重力波とは、時空の歪みが伝わる現象です。重力波の存在は、アインシュタインが1915年に発表した一般相対性理論によって理論的に予言されました。当時、重力波の観測には非常に精密な測定が必要なため、実際に重力波を観測するのは難しいと考えられていました。しかし、科学技術が発展したことによって、アインシュタインの予言から100年後の2015年に、重力波が初めて観測されました。この観測をきっかけとして、現在、さらに大型の重力波検出器の建設が世界各国で計画されています。そのため、重力波観測を用いて、宇宙に関して新しい発見が多く得られると期待されています。

このような背景から、私は大学院で、未知のエネルギーである暗黒物質の正体を、重力波の観測を用いて解明するための研究を行っています。宇宙全体のエネルギーのうち、私たちが解明できているエネルギーは、驚くべきことに、わずか5%しかありません。残りの27%が暗黒物質、68%が暗黒エネルギーと呼ばれており、その正体は未解明です。この未解明のエネルギーの正体を解明することは、宇宙物理学における最重要課題の一つです。私は、この暗黒物質の正体を解明し、人類が新しいエネルギーに対する知見を得ることに貢献したいと考えています。

このように、将来の発展が期待されている重力波観測を通して、宇宙に関する新しい物理を発見する基礎研究の研究者になることで、社会に貢献したいと考えています。この夢を叶えるための日々の研究に集中できるように、多大なご支援をくださる黒田奨学会の皆様にご心より感謝申し上げます。日々、精進して参りますので、ご指導ご鞭撻のほ

どよろしくお願いたします。

九州大学大学院薬学府創薬科学専攻 中橋 凜太郎



黒田奨学生に選出されたことを光栄に思っています。黒田奨学生としての自覚を持ち、研究活動に取り組んでいく所存です。

大学院の修士課程においては、研究者としての地盤を構築することに尽力していきたいと思っています。将来、博士課程を経て、研究者として活躍することを目標としています。そのために将来の研究者としてのキャリアを支えられるような地盤を作ることが重要であると考えているからです。具体的には、専攻分野にとられない幅広い知識の習得、コミュニケーション能力の向上に取り組みたいです。

将来の研究者としてのキャリアを考える上で、幅広い知識は重要であると思っています。将来の研究者としての選択肢を広げてくれるからです。また、幅広い知識は発想を豊かにしてくれると思っています。分野の垣根を越えた豊富な知識を活かし、新しい科学を開拓できるような研究者になりたいと思っています。

また、研究を効率的に進めていく上で、多くの研究者と協力していくことが必要になると思います。私はチームとしての活動において、互いに信頼できる良い関係を作ることが重要であると考えています。私は、修士課程においてコミュニケーション能力を高めることで、チームを良い方向に先導できるような研究者になりたいと思っています。また、コミュニケーション能力を向上させ、学会やシンポジウムなどで研究者との交流を積極的に行っていきたいと思っています。

また、修士課程で研究者としての地盤を構築し、博士課程では海外留学に挑戦したいと思っています。私的な話になりますが、学部時代には、短期留学やバックパッカー旅を通して、多国籍の方と交流する機会が豊富にありました。異なる文化で育った方との交流は、自分の価値観を広げてくれる良い経験となりました。こうした経験から、研究活動の場を海外に移すことで、専門的な知識だけでなく多くのことを学べると考えています。また、グローバル化が進む社会において、海外での研究

経験は自分の武器になると思います。困難の多い道にはなるとは思いますが、果敢に挑戦していきたいと思っています。

九州大学大学院システム情報科学府 情報理工学専攻修士課程 藤本 隆晟



黒田奨学生に選ばれたことは大変光栄であり嬉しいことだと感じています。私は、この黒田奨学会の奨学金制度を受けることで、自分の研究をより深めることができ、より高度な学術研究に取り組むことができます。また、この奨学生に採択されたことにより、より多くの人々と交流し、社会に貢献することを目指していきたいと思っています。

大学院生としての今後の意気込みとしては、現在行っている「差分プライバシー」を用いたプライバシー保護の研究に力を入れたいと考えています。この研究は、私が今までに行ってきた研究の中でも特に興味を持っている分野であり、私の専門性を高めることができると考えています。また、研究以外にも、現在行っている高専生の塾事業やプロダクト開発事業にも力を入れ、組織の運営やマーケティングの勉強も同時に進めていきたいと思っています。

私は、将来のエンジニア像のビジョンとしては、①他の人(ユーザ、チームメンバー等)の立場に立って考える能力 ②チーム全体を見渡すことのできるマネジメント能力 ③幅広い技術・知識をキャッチアップするテック意識、をもったエンジニアになりたいと思っています。これらの能力を身につけることで、自分の専門性だけでなく、ビジネスやマーケティング、プロジェクトマネジメントなど、多岐にわたる分野で活躍することができるエンジニアになりたいと考えています。これらのビジョンを実現するために、私は様々な分野に挑戦し、幅広い知識や技術を身につけるための努力を続けていきます。

京都大学工学部物理工学科 才田 隼輔



数日前に京都大学に入学しましたが、この大学には高専時代には比べ物にならないほど魅力的な情報や人が溢れています。しかし、膨大な情報のため、目移りしてしまい、自分の将来の選択について考えることが多くなりました。

ました。

まず、入学式直後に夏休みの2週間、ワシントンD.C.への短期留学を申し込みました。NASAやCSIS、アメリカ大使館を含む企業や財団を訪問し、リーダーシップを育成するプログラムです。海外経験がない私にとっては絶好のチャンスだと思いましたが、このプログラムは京大から10人しか選ばれないプログラムで倍率が高いです。しかし、面接で私が高専出身で、15歳から機械工学を専攻しているという珍しいバックグラウンドを活かしたいと説明する予定です。

次に興味を持ったのは京都大学宇宙木材研究室です。この研究室では世界初の木造人工衛星の開発を行っています。私は高専時代、3DCADを用いて風車のブレードを設計した経験があり、また木材の疲労について少し研究したこともあるため、この研究に携わりたいと応募しました。高専時代には、日本機械学会での学会発表に参加し、他の大学生の発表に触発されて研究に対するモチベーションが高まったこともあります。この研究室に参加することは絶好の機会だと思います。

また、KUISC(留学生委員会)に入会しました。学部生のうちに交換留学に一度は行きたいと考えていて、実際に交換留学に言った経験のある学生がKUISCに何人かいるという点と、英語でいろいろの国から集まった留学生と国際交流したいと言う点から、この機会を逃すわけにはいかないと思いました。また、高専時代に熱心に取り組んでいたラグビーを続けるため、体育会ラグビー部にも入部しました。このような多くの課外活動ができるのは、黒田奨学会の支援のおかげです。普通はアルバイトをして生活費を稼がなければならないため、このように多くの課外活動に参加することはできません。

最後に、大学では学業に熱心に取り組むとともに、何かおもしろそうなチャンスがあるときは迷わずチャレンジしようと思います。

九州大学薬学部創薬科学科 今井 皓星



修猷館高等学校を卒業し、九州大学薬学部創薬科学科に進学しました今井皓星と申します。この度は黒田奨学会の奨学生として採用して頂き、誠にありがとうございます。伝統ある黒田奨学会及び瑞藤会の一員として迎え

入れていただいたことを光栄に思うとともに、身の引き締まる思いを感じているところです。

私は高校を卒業して順調に大学生になれたのではなく、高校3年生の時に現在私が専攻している学科の入学試験に落ち、1年間の浪人の末にリベンジ合格を果たすことができ今に至ります。浪人期間は私にとっていわば人生における足踏みのようなものでした。しかし私はこの1年の間に「なぜ薬学部への進学にこだわるのか。将来何を成し遂げたいのか。将来どのような人物になりたいのか。」などといったように、自分の将来について何度も真剣に考えることができました。これまでただなんとなく受験を乗り越え、進級や進学してきた私にとって、このように立ち止まって人生について考える時間は貴重でした。またこれらの問いに対して私なりに今時点での答えを出すことができました。

私は創薬研究者になり、日本のみならず世界中の多くの人の苦痛を取り除くことができる薬や命を救う薬を開発したいと思います。また私は特に副作用に着目して新薬の開発をしていきたいと思っています。副作用の発現を軽減するためには創薬の初期段階からAlpha Foldなどの人工知能を利用した技術を使用し、薬とターゲットとなるたんぱく質がどのように結合するかを解析することや、体内時計に基づく生体リズムにあわせて、治療効果が上がる時間帯に薬を投与する治療法である時間治療をすることが必要です。そのため私は学部4年間と大学院での数年間で、創薬に関する最新技術への知識や、臨床現場であらゆる病気に対する正確で深い知識を身につけたいと思っています。

まだ至らない点も多く、黒田奨学会の先輩方や理事の皆様方にご迷惑をおかけすることも多いかと存じますが、黒田奨学会の奨学生に相応しい人物となれるよう、そして世のため人のために尽くすことのできる創薬研究者となれるように、日々

精進してまいりますので、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

東京大学理科二類 川上 航平



この春に久留米大学附設高等学校を卒業し、東京大学理科二類に進学致しました、川上航平と申します。この度、黒田奨学生として採用していただき誠にありがとうございます。長い歴史のある黒田奨学会や瑞藤会の一員に

なれたことを大変光栄に思うとともに身が引き締まる思いです。先日の奨学会入学式でのお話にもありましたように、ノブレスオブリージュの使命を果たし、社会に貢献できる人材となるため、大学生としての努力を怠ることなく精進して参りたいと思います。

私が大切にしたいと思っているのは人との繋がりで、これまでも学校や習い事で多くの人との出会いを重ねてきましたが、特に私は高校時代に科学オリンピックなどを通じて日本全国、さらには世界各国の人たちと知り合いました。中には大学で再会した人もいますが、他にも既に多くの人と新たに出会い、今後もまたいろいろな人に会うでしょう。そして黒田奨学会や瑞藤会を通して多くの出会いがあるはずで、私はこのように出会った人達からの学びを大切にしつつ、切磋琢磨していきたいと思っています。

私は、高校時代に特に生物学・化学に力を入れて勉強しており、バイオテクノロジーなどの生命科学の分野、特にこれらの知見や技術を応用することに興味があります。生命科学は人間の生活の基本である衣食住の全てに深い関係があります。また、近年問題となっている環境問題や食料問題の改善のためにも必要です。私は、生命科学の応用研究を通して、衣食住の生活をより豊かにしたいと考えています。そのためには、今の人間社会において何が必要なのか、何が問題か、などを把握している必要があります。また、これらの理解のためには専門に限らない広く深い教養が必要です。東京大学では、前期課程の2年間で専門や文理の枠にとらわれない多様な授業が展開されています。私も、自分の目標を達成するため、生命科学に係る分野を中心としながら、情報や言

語、社会課題など、いろいろな分野について学んでいこうと思っています。このような学ぶ姿勢は、もちろん前期課程の期間だけにとどまらず、今後ずっと持つべきものです。この初心を忘れることなく、勉学に励んで参ります。これからどうぞよろしくお願いいたします。

九州大学工学部航空宇宙工学科 工藤 健太



宗像高等学校を卒業し、この春より九州大学工学部Ⅲ群に進学しました工藤健太と申します。この度は黒田奨学会の奨学生に採用していただき、ありがとうございます。伝統ある黒田奨学会、瑞藤会の一員になることができ大

変光栄です。また、様々な分野で活躍されている先輩方と関わりを持てることを非常に嬉しく思います。これから社会に貢献できる人材となるべく、何事にも真摯に取り組んでいく所存です。

最近、宇宙産業の発達により宇宙が我々の身近なものに近づいてきています。例えば、「ZOZO」創業者の前澤友作さんは2021年に宇宙ステーションに行っており、今年2023年には月旅行に行く予定です。ただ、火星旅行などはまだできませんし、ほとんどの人々にとって宇宙に行くこと自体まだまだ困難なものに変わりありません。私は、多くの人々が宇宙の色々な場所に行けるようになれば人類の活動の場が広がり、人類の発展の可能性が大きく上がると信じています。そのため、将来は宇宙で長時間活動できるロボットや、より低コストで運用可能なロケットなどの開発に携わり、宇宙のより広い範囲をより多くの人々にとって身近なものにしたいと考えています。

これらの目標を実現させるために、九州大学では工学部Ⅲ群に含まれる4つの学科のうちの航空宇宙工学科に入り、多くの専門知識や最先端の技術と、それらを組み合わせて応用していく力を身に着けたいです。九州大学には多くの大型研究設備があり、航空宇宙工学科ではJAXAとの共同研究などもあるので、それらを活用してより実践的なスキルも身につけたいとも考えています。また、Ⅲ群のどの学科に入るかは2年前期までの成績順で決められるので、1年次は文系教科などを含めた広い範囲を学習しますが、多面的なもの

の見方を獲得するためにも、どんな分野にも真剣に取り組んでいくことを意識しながら学習を進めていきたいと思っています。

まだまだ未熟な点多々とありますが、これから実りある大学生活を送れるよう、様々なことに挑戦し、懸命に努力してまいります。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

東京大学文科三類 下川 哲史



修猷館高等学校を卒業し、この春、東京大学教養学部文科三類へ進学いたしました下川哲史と申します。この度は、名誉ある黒田奨学生に採用していただき、誠にありがとうございます。伝統ある黒田奨学会及び瑞藤会の一員

となれたことに大きな誇りと喜びをもつとともに、その名に恥じぬよう努めていきたいと存じます。また、奨学会では様々な方面で社会貢献をなさっている先輩方や、高い志を持ったほかの奨学生の方々と交流をもち、大変貴重な刺激を得ることができのるのを非常に嬉しく思います。

私は幼いころから歴史に興味があり、将来はその研究者となって社会に貢献したいと思う所存であります。そこで、東京大学文科三類から文学部へ進学し、日本で最高レベルの学術環境で歴史学を学ぶことを目指して進路を決定いたしました。一口に歴史学と申しましても、東大文学部の専修過程には日本史学や東洋史学、西洋史学など様々な分野があり、教養課程を通して自分が最も興味をひかれるものを選び抜いていきたいと思っております。大学院に進んで研究者となる道を志しておりますが、そのためには当然大変な努力が必要であり、黒田奨学会のご支援の下、学業に努めていきたいと思っています。

さて、私が学問としての歴史に興味を抱ききっかけとなったのは、東大の受験勉強にありました。東大の日本史では、与えられた文章やグラフなどの史料を読み、教科書で学んできた知識と総合して自分なりに解釈して論述問題を解答していく、という形式が長年にわたって採られています。ここでは、史料を正しく読み取る力、知識をもとに史料を解釈する力、論旨の明確な文章を書く力が求められています。このような問題を解くにあた

って、私は教科書の暗記でもなく、また、大河ドラマなどの物語としての歴史でもない、史料批判にもとづいた学問としての歴史の興味深さに、ほんのわずかですが触れることができました。東大の受験勉強は私にとって大変有意義なものだったと思います。

改めまして、黒田奨学生に採用していただき、大変なご援助をいただけることに深く御礼申し上げます。自分自身、立派な社会人として社会に貢献していくためには、まだまだ未熟なところが多くございますが、東京での大学生活を通じて人間として大きく成長できるように努めてまいりたいと思います。将来、黒田奨学会の名に恥じず、社会に貢献することができるよう、学業等日々精進いたしますので、ご指導、ご鞭撻のほど何卒よろしく願いいたします。

大阪大学基礎工学部情報科学科 末吉 温



今春、筑紫丘高校を卒業し、大阪大学基礎工学部情報科学科に進学しました末吉温と申します。この度は、黒田奨学会の新奨学生として採用していただき、誠にありがとうございます。歴史と伝統のある黒田奨学会及び瑞藤

会の一員となることができたことを大変誇りに感じております。これからの大学生活、そして、卒業後も常に日々精進をし、社会に貢献できる人材となるべく、身を引き締めて行動していくことを改めて決意しました。

私はセキュリティエンジニアとして、インターネットを用いて行われる犯罪を減らし、ゆくゆくはなくせるように努めたいと考えています。現在、インターネットの世界的な広がりにより、新たな繋がりをたくさん持つことが可能となったと同時に、詐欺、架空請求、ウイルスなどによる個人情報の流出など、さまざまな犯罪が身近に起こるようになってきました。その件数は現在、日本で一年に1万超、世界では約85万にわたり、その被害総額は日本だけでも一年に1千億を超えていると言われています。これからさらにインターネットの需要は上がり続けると考えられている現代において、この問題は今すぐに解決すべきものであると感じ、これを抑えていきたいと考えるように

なりました。

その中で特に力を入れて取り組みたいのは、悪質なウイルスを退治することです。そのため、特に暗号解析の分野を専攻にしたいと考えています。ウイルスは、対策されないように時が経つに連れて、さまざまな手法をとって適応し感染していきます。また、世界各地の場所を経由してサイバー犯罪は行われます。そのため、大学卒業後は世界各地で新たな技術の習得、連携をしていき、日本である犯罪だけでなく世界各地で起こるものまで対処していきたいです。

まずは、今後の大学4年間でその基礎となるコンピュータ技術を学び、将来の社会貢献に繋げていきたいです。

京都大学薬学部 千綿 美慧



この春、筑紫丘高等学校を卒業し、京都大学薬学部に入學した千綿美慧と申します。この度は、黒田奨学会の奨学生として採用していただき、誠にありがとうございます。歴史ある黒田奨学会、そして瑞藤会の一員としての誇りを胸に抱いて日々精進し、各方面で活躍なさっている先輩方のように、社会に貢献できる人材になれるように努力していく所存です。

私は創薬研究者として将来、新薬の開発に携わりたいと考え、京都大学薬学部を選択しました。医薬品は医療の分野において欠かせないものであり、一つの新薬を開発することができます。京都大学薬学部では一回生の前期に毎週異なる教授が自分の研究分野について紹介するという授業があります。この授業によって学部一回生のころから現在の最先端の研究について知ることができます。また、学部生が研究室を見学する機会も多く設定されており、四回生で研究室に配属されるずっと以前から、それぞれの研究室での研究内容を知ることができます。このように早い段階から様々な研究について学ぶことのできる環境を活かして、研究室への配属前に自分の興味のある研究を見つけ、その研究を通して社会に貢献したいと考えています。

また、私は大学生活を送っていく中で心掛けたいことがあります。それは、幅広い分野に目を向

けることと、他者と上手に協力できるようになることです。薬学研究では、生体についての知識や物質の分子の形など幅広い分野についての知識が必要となります。また、薬学研究は一人で行うものではなく、複数人で協力して行うものです。そのため、他者と上手くコミュニケーションをとる能力が必要不可欠です。上手なコミュニケーションには他者の話を聞く能力と、自分の話したい内容を簡潔にまとめる能力が大事です。日常的にこれらのことに気を付けて大学生活を送ることで、研究者に必要となる能力を磨いていきたいと考えています。また、黒田奨学会の研修会での発表の場においてもその成長を見ていただき、ご指導頂けたらと思います。

最後になりましたが、至らない点多々あり、奨学会の先輩方や理事の方々にご迷惑をおかけすることも多いかと存じますが、何卒よろしくお願いいたします。

大阪大学薬学部薬学科 長尾 野之香



この春、筑紫丘高等学校を卒業し、大阪大学薬学部薬学科に進学することとなりました長尾野之香と申します。この度は、黒田奨学会の奨学生として採用していただき、まことにありがとうございます。歴史ある黒田奨学会の一員となれたことを大変光栄に思っています。

これから日々精進し、社会に貢献できる人になれるよう、日々取り組んでいきたいと思っています。私は、これから日本がさらに高齢化社会になっていく中で、高齢者の方々がより安心して服用できるような薬の開発に携わりたいと思い、大阪大学薬学部に進学しました。高齢者の薬の服用には様々な問題があることを知り、これからの社会が解決していかなければならない課題であると思ひ、その解決に取り組んでいきたいと思っています。また、高齢者が服用しやすい薬は、高齢者だけでなく多くの方が服用しやすい薬になり、多くの方がより安心して薬を服用できるようになることにつながると思ひます。

大学生活はこれまでの学生生活とは異なると感じています。大学生活では、新しく出会う人たちとのつながりを大事にして、薬学を学ぶとともに

に様々なことにふれて、多くのことを吸収して、人として薬学生として成長していきたいと考えています。

最後になりますが、黒田奨学会の奨学生に採用していただいたことに改めて深く御礼申し上げます。黒田奨学会の研修会を通じて、様々な分野の人たちと交流して成長の糧にしていきたいと思ひます。また、先輩方や同期の方との関わり合いを大切にしていきたいと思ひています。まだまだ至らない点が多いですが、黒田奨学会の一員として誇りを持ち、精一杯頑張りたいと思ひます。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

佐賀大学医学部医学科 中川原 歩乃佳



この春、筑紫女学園高等学校を卒業し、佐賀大学医学部医学科に進学することになりました中川原歩乃佳と申します。この度は、黒田奨学生として採用していただき、ありがとうございます。歴史と伝統のある黒田奨学会の一員となり、身が引き締まる思ひです。

多方面の分野で活躍されている先輩方に自分自身も続けるよう、勉学に励んでいきたいです。

私は将来、医師になり、女性の健康を支えることで社会に貢献したいと考えています。現在、日本ではAYA世代の多くの女性が子宮頸がんや乳がんなどの病気に苦しんでいます。AYA世代の女性は進学・就職・出産・結婚などに加え、出産など人生における重要なライフイベントと重なる時期です。ゆえに、AYA世代で病気に罹患される方は多くの不安を抱えていると思ひます。そこで私は医師となり、病気に罹患している女性の方々の身体的な不安だけでなく、社会的な不安や精神的な不安までも和らげる治療を施したいと考えています。

私は高校生の頃、ある医療従事者の方から「医療従事者が完全に患者さんの気持ちを理解することはできない。だからこそ、患者さんのことを共感しようとするのではなく、響感することが大切」という話を伺いました。この話を胸に、私も安易に患者さんに対して共感する言葉をかけるのではなく、患者さんに寄り添い、傾聴する姿勢をもった医療従事者になりたいと考えています。

私が理想とする医師像は的確な状況判断ができるための知識や技術を身につけている存在です。どんなに患者さんに寄り添うことができても、治療を施す能力が無いのであれば意味がありません。将来、私の目標である「腕の立つ医師」となれるよう、大学生活でしっかりと医学を学んでいきたいです。

黒田奨学会では高い志を持った奨学生や社会で活躍されている先輩方と交流する機会が設けられています。このような恵まれた環境に感謝し、医師となり社会貢献を行うという目標に向かって努力を重ねていきたいと思っております。まだまだ未熟な私ですが、懸命に努力してまいりますのでご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

福岡教育大学中等教育理科専攻 平野 奏希



西南学院高校を卒業し、この春より福岡教育大学中等教育理科専攻に進学いたしました平野奏希と申します。この度は、黒田奨学会の奨学生に採用していただき、誠にありがとうございます。悠久の歴史をもつ奨学会の一員になることを身に余る光栄と存じます。同時に、身が引き締まる思いを実感しております。

先日行われた黒田奨学会の入学式では、あらゆる分野で活躍されている先輩方の貴重なお話を伺うことができ、深い感謝と共に、私も黒田奨学会の名に恥じぬよう研鑽を積んでいこうと決意を新たにしました。

私は将来「気付ける教師」になることを目標にしております。子どもたちに接する際、「気付き」は大切にすべき姿勢です。子どもたちがみんな、心の内を素直に表現できるわけではありません。笑っているけれど心は泣いているかもしれない。平然としているけれど、本当は不安でいっぱいなのかもしれない。実際に私も幼少期に受けてきた元父親からの虐待の苦しみや恐怖を他人に伝えることはできませんでした。助けを呼べない子どもたちがたくさんいます。

先日も、二歳児が母親からの虐待により死亡したという報道を目にしました。今を生きる子どもたちの安全を守れなくて、どうして未来の日本社会がより良い方向に向かうのでしょうか。私は教師として、子どもたち本人や家族だけの努力では

解決できない問題に気付けるようになっていきたいです。そのために、大学では教育に関する知識や子どもを取り巻く問題を学び、思考力を深めていきたいと思っております。入学式を無事に終え、本格的に大学生活が始まりました。大学は自然に囲まれており、耳を澄ませば小鳥の囀りが聞こえます。私は大学生活において大切にしたいことがあります。それは、懐疑的な見方を持つことです。問題点に着目し本質を捉えた理解を目指す。それが、私が専攻する理科に必要とされることです。あたりまえと思っていることの中にも自然の原理があつたり、自然現象を利用していることは多いです。疑問を深め思考を重ねた先にある新しい発見の喜びを子どもたちに伝えるために、まずは私が些細な気付きを大事にし、問い続ける力を身につけたいと思っております。

いたらない点も多々あると存じますが、ご指導・ご鞭撻のほど何卒よろしくお願いいたします。

大阪大学経済学部経済経営学科 満永 瑛稀



春日高等学校を卒業し、この春、大阪大学経済学部経済経営学科に進学しました満永瑛稀と申します。この度は黒田奨学会の奨学生として採用していただき、誠にありがとうございます。伝統ある黒田奨学会の一員となれたことを大変誇りに感じると同時に、身が引き締まる思いです。

私は将来、企業経営・会計やマーケティングを学ぶことで、健全な社会活動を持続・継続するためのサポートだけではなく、経営難に陥り困っている企業や店舗のサポートをしたいと考え、大阪大学経済学部への進学を決めました。

そう考えるに至ったきっかけは、新型コロナウイルス感染症に起因する経済混乱に関する数々の報道です。私は新型コロナウイルス感染症の脅威が日本に到達し、社会や経済に大きな影響をもたらした頃に高校生になりました。高校生として過ごしている間、ニュースでは、拡大していくコロナの感染状況についてだけでなく、コロナの影響で赤字・倒産してしまった店舗や企業について多く取り上げられていました。そのような赤字・倒産の危機に直面している企業についての報道は、

私には多大な刺激でもありショックでもありました。

新型コロナウイルス感染症については5月8日から感染症法上の位置付けが「2類相当」から「5類」に引き下げられ、コロナ以前の社会活動に戻るかと思われまます。しかし、再び同じ危機が起きた場合、社会活動の持続危機を乗り越えていけるようにサポートしていくために、日本経済や世界経済にまつわる情報、企業経営に必要な知識などを習得したいと考えております。また、それだけでなく、サービス向上の目的の下、昨今様々な企業で用いられているビッグデータを正確に且つ有効に活用できるようにする為に、AI・データサイエンスについても学びたいと考えております。経済学を学ぶだけで満足せず、経済学以外の分野の知識の習得にも努力を怠らず、勉学に励む所存です。

最後に、まだまだ未熟な点が多い私ですが、黒田奨学会の奨学生として相応しい人間になれるように、また、将来、自己の学びを社会に還元できるように、精一杯努力致しますので、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

九州大学共創学部共創学科 山野 莉那



春日高等学校を卒業し、九州大学共創学部に進学しました山野莉那と申します。この度は伝統ある黒田奨学会の奨学生に採用していただき、誠にありがとうございます。黒田奨学会の一員となれたことを大変光栄に思うと共に、

大学生活に向けて身が引き締まる思いでおります。

私は、大学生活を通して、世界遺産におけるオーバーツーリズムの解決方法について研究していきたいと考え、九州大学共創学部に進学しました。オーバーツーリズムとは観光客の増加に伴って起きる悪影響のことを指し、具体的には交通渋滞やごみのポイ捨てによる環境汚染などが例として挙げられます。ヴェネツィアや京都などですでに問題となっており、今後も観光業の発展によって増加すると考えられています。世界遺産は教育や環境保全のほかにも異文化の理解や尊重に繋がりが、国際協調を促すことができるため保護が必要ですが、守るために封鎖するなどしてしまうと、

観光業などによって得られる遺産の保護資金を得られなくなり、教育や異文化理解・尊重に役立てることもできなくなります。そこで私は、世界遺産におけるオーバーツーリズムを観光の分野から解決し、それぞれの遺産の魅力を伝えられる方法を考えたいと思うようになりました。世界遺産でのオーバーツーリズムを解決するには、遺産のある地域の環境や文化に配慮した方法を考えるために文理両方の分野を学ぶ必要があり、世界中の人々とコミュニケーションをとれるように、言語能力を鍛えることも重要だと考え、共創学部を選びました。毎日の授業や課外活動、留学などで主体的に学び、世界遺産やオーバーツーリズムの課題を抱える文化財などを守るために勤しむ所存です。

最後になりますが、改めて黒田奨学会の奨学生に採用していただいたことに深く感謝申し上げます。至らぬ点の多い私ではございますが、目標に向けて精進し社会に貢献したいと考えております。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

トピックス

●末田美和さん、古賀一成さんが博士号取得！

3月に九州大学工学府・機械工学専攻博士後期課程修了の末田美和さん、九州大学理学府・物理学専攻博士後期課程修了の古賀一成さんは、博士論文を提出し、博士号を取得しました。博士論文のなかで、謝辞として本奨学会について感謝の念を書かれていますので、前後の文章を省略して紹介します。

「エネルギー条件に基づく自己同期現象の解析と応用に関する研究」

九州大学大学院・工学府機械工学専攻 末田 美和

あらゆる面で温かくご支援いただき、工学者として社会貢献することの大切さを教えてくださった公益財団法人黒田奨学会の皆様、経済面で支えてくださった日本学生支援機構の皆様に深く御礼申し上げます。



黒田奨学会
卒業記念式において

「Study of Kerr-AdS5 spacetime from the quasi-normal modes and the catalytic effect of the vacuum decay」

九州大学大学院・理学府物理学専攻 古賀 一成

I appreciate the financial support from the “Kuroda Scholarship Foundation.” They supported me for nine years from the time that I entered Kyushu University as an undergraduate student. Their support allowed me to concentrate on my research without worrying about daily life. They gave me friendly advice when I was struggling and were concerned about the progress of my research. At the regular workshop, I was able to listen to various research presentations, which stimulated and motivated me in my own research. I would like to express my gratitude once again.



黒田奨学会
卒業記念式において

●京都大学工学部物理工学科2年の才田隼輔さんが Kingfisher Global Leadership Programの参加メンバーに 選ばれました！

Kingfisher Global Leadership Programとは、将来国際的な活躍を目指す京都大学大学院生または学部生を対象とする国際機関での研修プログラムで、プログラム期間中に米国ワシントンDCの各種機関および現地企業・財団（世界銀行、NASA、NIH、国際開発NGO等）を訪問し、そこで働く研究者やプロフェッショナルによる京大生のための講義とディスカッションに参加するプログラムということで、彼は9/1から9/16まで米国・ワシントンD.C.およびサンフランシスコに行く予定です。

このプログラムは応募資格時点で、IELTS6.0以上またはTOEFL iBT80以上の英語力と優秀な学業成績が求められるもので、100人以上の応募者の中から書類および面接による選考があった後、10人ずつのグループによる英語でのグループディスカッションを経て最終的に選ばれた10人中の一人だそうで、素晴らしい快挙です。

久留米高専出身の才田奨学生は編入で京都大学に入学しましたが、教養課程を学びたいという本人の希望で2年次に編入しています。名誉あるプログラムに選ばれたことを奨学会に報告してきましたので掲載します。



京都大学短期派遣プログラム
 「Kingfisher Global Leadership Program
 with Kyoto University」(旧「Kyoto-DC
 Global Leadership Program」)



2023年度 京都大学短期派遣プログラム
 「Kingfisher Global Leadership Program」
 の参加者募集について

留学生より近況報告

現在、留学中の奨学生 2 名からの近況報告を紹介します。

ミラノより近況報告

京都大学文学研究科 修士2回生 小河 義典

2023年1月より、黒田奨学会の短期留学支援制度を利用してイタリア、ミラノに滞在しております。主に語学学校や大学で授業を受けつつ、研究分野であるオペラ台本についての資料収集を行っています。異国での生活はカルチャーショックの連続で、近頃はユーロ高の影響で大変ではありますが、充実した日々を過ごすことができます。

さて、私が滞在先としてミラノを選んだ理由はひとえに、世界でも有数のオペラ劇場であるスカラ座の存在があったからです。スカラ座は数々の有名なオペラの初演が行われた、名実ともにイタリアにおけるトップの劇場です。毎日のようにオペラやバレエ、オーケストラのコンサートが行われており、私もおおよそ週に1、2回ほど、暇さえあれば劇場に足を運んでいます。

しかし頻繁に劇場に通おうとすると、つきまとうのはお金の問題です。オペラのチケットを予約しようものなら、高い席で200€前後、安い席でも30€はかかるのですが、到底そんな金額を毎回払うことはできません。そこで私が利用しているのが立ち見席です。スカラ座では公演の当日に、なんと10€でチケットを購入することができるのです。この格安のチケットのおかげで同じオペラを何度も見ることができ、作品の理解を深め、より楽しむことができます。

また立ち見席の中でも比較的良い場所を購入するためには朝から並ぶ必要があるのですが、ここでの体験は私にとってオペラを鑑賞するのと同じくらい貴重な体験になっています。立ち見席を購入しに来るのはたいてい観光客・音楽を勉強している学生・そしてミラノのオペラファンの3つに分類されるのですが、朝から並びに来るのはとりわけ熱心なオペラ好きのおじさんたちで、おじさんたち同士で会話している内容を聞いたり、時には直接話したりするのが楽しく、イタリア人ファンの目線を伺い知ることのできる絶好の機会になっています。また思いがけず日本人でイタリア留学中のオペラ歌手志望の方やオペラ関係の仕事をしていた方と知り合うこともあり、劇場に行く時はいつも、今日はどんな人が並びに来るのだろうとワクワクしながら向かっています。

たくさんの出会いがある一方で、当日券の列からはイタリアにおけるオペラ産業の衰退も少なからず実感します。というのも先に述べたとおり、当日券を買いに来る人は年齢層が高めであり、若い人で並んでいるのはミラノで音楽留学中と思しき学生で、少なくとも私と同年代のイタリア人が並んでいるのは目にすることがありません。また以前一緒に並んだ人から聞いた話では20年近く前は立ち見席を買うために前日の夜から並ぶことも少なくなかったそうですが、今では座席を選ばないのであれば、30分も並ばずに購入することができます。イタリアでは若者のオペラ離れに加え、国家の財政難が原因となって多くの劇場が経済的に危機的な状況にあり、公演にお金をかけられないことが更なる人気の低迷・

収入の低下を生んでいるようです。こうしてイタリアでのオペラ産業の実態を目の当たりにしていると、日本における舞台芸術産業のことが自然と頭に浮かびます。国内でのオペラの現状はもちろん、歌舞伎などの伝統芸能のことも想起され、若者をどう取り込むかという課題は日本でもイタリアでも共通のものではないのか、公的な支出はイタリアと日本でどれくらい違うのかなどと、考えを巡らせることが多くなりました。このように、立ち見席の行列に並んでいる時間は私に芸術・文化を考える機会を日々与えてくれています。

衰退しているオペラの現状を述べましたが、それでもイタリアはやはりオペラ発祥の地、ミラノの市内にはオペラに限らず様々な劇場があり、日本以上に劇場文化が人々に浸透しているのは間違いありません。滞在期間も残り2ヶ月ほどとなりましたが、研究の傍らで可能な限り、本場のオペラ・劇場文化に触れ続けておきたいと思います。

最後になりましたが、今回の留学をご支援いただいております奨学会の皆さまに感謝を申し上げて、近況の報告といたします。



『アンドレア・シェニエ』公演終了後の楽屋口にて、メゾソプラノ歌手のFrancesca Di Sauroと



スカラ座の立ち見席から!



スカラ座の立ち見席から

オーストラリアより近況報告

東京大学法学部4年 渡邊 蒼生

4月

この一ヶ月は様々な語学の研修に参加した一ヶ月でした。英語母国語話者と英語で会話する Let's speak English や日本語を勉強している留学生や現地の学生と日本語でコミュニケーションを取る Language Exchange など大学では語学に関する様々な催し物が充実しており、これらを通して外国の友人を作り、体験したことのない異文化の話を数多く聞くことができます。

留学中の ANU では先週から 2 週間の Teaching Break (中期休暇) に入り、授業のない日が来週まで続いています。日頃、なかなか時間が取れないため読書や映画鑑賞に時間を割くことができ、授業とはまた違った充実した日々を送っています。また、先週はオーストラリアの南東に位置するタスマニアを訪れ、自然の中で身と心をリフレッシュしました。

Teaching Break も折り返しを迎え、来週からは授業が再開します。学期の後半に入り、学期末のレポート提出等も本格化するため、余裕を持った計画で一つ一つの課題に取り組みたいと思います。

5月

留学を開始してから 3ヶ月が経過しました。今月は私が留学先の ANU で所属する International Relations Society のイベントの一環で日本大使館とトルコ大使館を訪れるという留学ならではの貴重な経験をしました。

日本大使館では、日豪関係について経済協力の面から説明があり、その後 JET Program という外国人向けの短期間の日本での就業プログラムについての説明を受けました。日本にいる時はあまり意識することがなかった日豪関係ですが、経済面での石炭、天然ガスの輸入、安全保障面での QUAD (日米豪印) など日本にとって重要な国だとの認識を新たに持つに至り、留学の意義を日々実感しています。その後は大使公邸の日本庭園を見学し束の間ながらオーストラリアで日本の雰囲気久しぶりに浸ることができました。

トルコ大使館では在豪トルコ大使による講演があり、少人数でかなり距離が近い中で大使の話聞いたことは非常に有意義でした。学生の間は日本の外交官に会うことはあっても、他国の外交官に会うことは滅多にないので、これもオーストラリアの首都に留学したことの一つの利点だと感じています。

首都キャンベラには多くの大使館が密集している地域があり、各国の大使館を比較して現れる文化の違いなどに思いを馳せることもとても興味深いです。このような活動を通して、奨学会入会時に語った外交官という目標を真に現実のものとして認識できるようになっています。

今月末には期末試験があるため、それに向けて日々の学習に一層励みたいと思います。



行 事 報 告

●令和4年度 奨学生卒業記念式

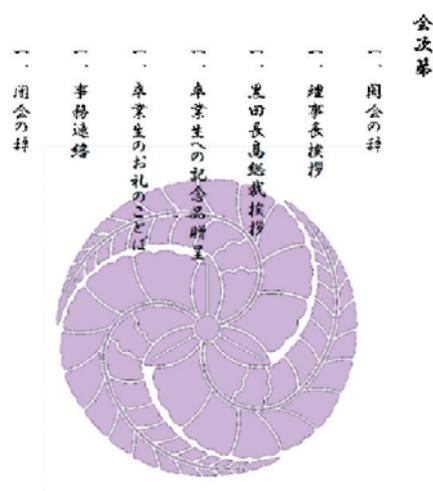
令和4年度黒田奨学会卒業記念式を、令和5年3月21日（火・祝）午後2時半より、西鉄グランドホテルにて執り行いました。コロナ禍が収束していない中、対面式、オンライン式、いずれのスタイルでやるべきか、なかなか決まらず、やっと1月末になって対面式でやることを決断しましたが、定期的に会場確保に苦勞し、伊達理事長の方でやっと西鉄グランドホテル、プレジールの間を予約して頂きました。

もちろん今回の式典には黒田長高総裁様にも御出席いただき、御挨拶を頂戴しました。会次第に従って肅々と式典が進みましたが、例年行っている記念品贈呈式では卒業生一人一人に新しく作った博多織の名刺入れが長高総裁より手渡しされ、卒業生も感激新たな思いだったことでしょう。

最後に、その感激の思いを卒業生全員から一人1分程度で述べてもらいました。4－9年間の感謝の気持ちを今後も忘れることなく大事にして欲しいものです。

記念式典後は3年ぶりの祝宴となりました。八並理事の乾杯の音頭から始まり、修士課程、博士課程の修了生からの感謝の言葉に続いて、渡邊理事から卒業生へのお祝いの言葉を頂戴しました。ホテル自慢の料理やシャンペン、ワインなどを楽しみながら和気あいあいと歓談が続きましたが、解散を惜しみながら19時前には終了となりました。

皆様の社会人としての出発を祝うとともに、今後の皆様のご活躍を心から祈りながら、卒業記念式の報告といたします。
(岡本)



令和5年度公益財団法人黒田奨学会 卒業記念式
令和5年3月21日（火・祝）午後2時45分～4時15分
会場 西鉄グランドホテル





令和4年度 博士・修士課程修了生および学士課程卒業生

(令和5年3月21日現在)

名 前	大 学	学 部	進 路
藤 井 かのん	東京外	国際文	フィンランドオウル大学人文学部派遣留学 (8/24~6/30)
古 賀 一 成	九大院	理	Proxima Technology Inc. リサーチャー
末 田 美 和	九大院	工	埼玉大学 助教
稲 富 翔 伍	東大院	工	東京大学大学院博士課程進学 (社会基盤学専攻)
塚 本 恭 平	東大院	理	ヤフー株式会社
松 藤 圭 亮	東大院	工	YANEKARA
吉 清 泰 生	東大院	工	atama plus
高 岡 祐 太	九大院	工	九州大学大学院 工学府応用科学専攻博士課程進学
石 崎 菜々子	九大	医	独立行政法人地域医療機能推進機構 下関医療センター
小 倉 菜 穂	九大	人文	三井住友建設株式会社
首 藤 春 風	九大	法	福津市役所
高 瀬 佳 奈	九大	人文	福岡市役所
中 田 蓮太郎	九大	人文	福岡県公立高等学校 地理・歴史科教員
原 知 輝	京大	経	三菱UFJ銀行
矢ヶ部 稜	九大	理	株式会社エヌ・ティ・ティ・データ
山 田 健 太	九大	工	九州大学大学院 システム情報科学府 電気電子工学専攻進学
朽 網 桃 香	東京農工	工	東京農業大学大学院進学
横 山 健	九大	工	九州大学大学院 システム情報科学府 情報理工学専攻進学

●令和5年度 奨学生入学式

令和5年度の奨学生入学式は令和5年3月21日(火・祝)14時半より、西鉄イン福岡にて3年ぶりに対面式で行いました。

大学学部新生は12名(内、編入生1名)、学部から引き続き大学院修士課程および博士課程に進んだ学生4名、特定枠修士生が4名の計20名です。

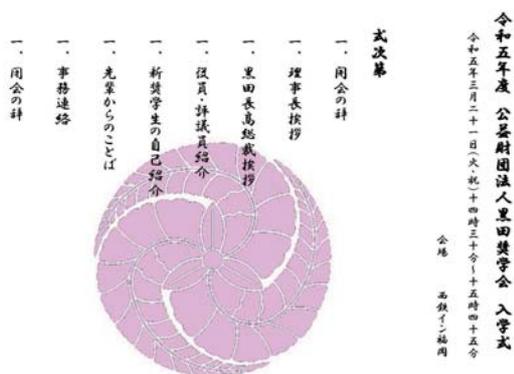
総裁の黒田長高様にもご出席頂き、理事評議員ほぼ全員が出席しました。式典では理事長挨拶に始まり、黒田長高総裁様の挨拶、理事・評議員紹介と続きました。

新奨学生は一人一人に約1分で自己紹介をしてもらいましたが、それぞれに黒田奨学生となった喜びや奨学生としての決意、大学での勉強などについて抱負を語ってくれ、自己研鑽に努めることを約束してくれました。

先輩からの言葉としては、東京大学修士課程を修了し、引き続き工学系研究科社会基盤学専攻、博士課程に進む稲富将伍氏に先輩を代表として自分の経験を踏まえ、黒田奨学生としての心構えなど、歓迎の言葉として厳しくも心温まるスピーチがあり、奨学生も印象深かったことと思われます。

久しぶりの対面式による入学式でしたが、厳粛な進行が進む中、15時半に予定通りに終了することができました。

(岡本)



令和5年度 新奨学生

学部生

氏名	出身校	大学
今井 皓星	修猷館	九州大学・薬学部
川上 航平	久留米附設	東京大学・理科Ⅱ類
工藤 健太	宗像	九州大学・工学部・航空宇宙
才田 隼輔	久留米高専	京都大学・工学部・物理工学科
下川 哲史	修猷館	東京大学・文科Ⅲ類
末吉 温	筑紫丘	大阪大学・基礎工学部・情報科学科
千綿 美慧	筑紫丘	京都大学・薬学部
長尾 野之香	筑紫丘	大阪大学・薬学部・薬学科
中川原 歩乃佳	筑紫女学園	佐賀大学・医学部・医学科
平野 奏希	西南	福岡教育大学・教育学部・中等教育教員養成課程理科専攻
満永 瑛稀	春日	大阪大学・経済学部・経済経営学科
山野 莉那	春日	九州大学・共創学部・共創学科

大学院生（学部・修士より継続支給および大学院特定枠新奨学生）

庄田 朋申	M1	九州大学大学院 経済学府経済システム専攻
谷口 彰	M1	九州大学大学院 理学府物理学専攻
中橋 凜太郎	M1	九州大学大学院 薬学府創薬科学専攻
藤本 隆晟	M1	九州大学大学院 システム情報科学府 情報理工学専攻
山田 健太	M1	九州大学大学院 システム情報科学府 電気電子工学専攻
横山 健	M1	九州大学大学院 システム情報科学府 情報理工学専攻
稲富 翔伍	D1	東京大学大学院 工学系研究科 社会基盤学専攻
高岡 祐太	D1	九州大学大学院 工学府応用化学専攻機能物理化学コース

参考：令和5年4月3日現在、地区ごとの黒田奨学生数（休学などの学生を除く）は下記の表およびグラフのようになります。

令和5年度 地区別奨学生分布		R5.4.3現在			
		九州地区	関西地区	関東地区	全奨学生
博士課程	D1	1	0	1	2
修士課程	M2	2	1	2	5
	S2	2			2
	M1	2	0	1	3
	S1	4			4
	計	11	1	4	16
学部生	B5-6	2	0	0	2
	B4	1	4	7	12
	B3	4	2	2	8
	B2	4	5	5	14
	B1	5	4	2	11
	計	16	15	16	47
計		27	16	20	63

含、休学中2名



●令和4年度 関東地区研修会 令和4年12月3-4日

令和4年度最後となる研修会、関東地区研修会が12月3-4日(土日)の2日間に亘ってオンラインにて開催されました。今回こそは対面式開催予定ということでホテルも予約し、楽しみにしていたのですが、10月末頃からコロナ感染第8波の兆しが表れ、結局は、またまた、そして泣く泣く、今回もオンラインにせざるを得ませんでした。

関東地区の奨学生は人数が多いため、2日間開催となります。面談に関しては関西地区と同様に夏休みを利用して8月中に全員の面談を済ませており、発表会のみということで2日間とも11時より行いました。

まず初日ですが、大学院生3名、学部2-4年生まで6名、1年生2名、計11名、次いで2日目は大学院生3名、学部2-4年生まで5名、1年生3名、計11名の発表が行われました。

内容的にはいつものながらの黒田奨学会研修発表会を特徴づける、文系理系を含めた幅広いテーマでの発表でしたが、今回というか、関東地区研修会の特徴ともいえますが、AI関係など数理系の発表が多く見られ、中身も数式たっぷり、ということで、我々年寄(私?)には理解難であり、その分当然というか、学生達からの質問が非常に活発でした。今回の一番の成果だったと言えそうです。

また、個人の発表が終わった後でもチャットを通しての意見交換が行われ、さすがに今の時代を反映した研修会となったようです。少々残念だったのは、10分という発表時間をオーバーした発表がいくつか見られ、発表前の練習不足?があったのでしょうか。

それでも最後の小田部理事による講評では、スライド表示や質疑応答に対する答えなど、各発表の素晴らしさを評価されていました。関東地区研修会は年に1回ですが、年ごとにプレゼンテーションの技術が上達していくことを私も実感しております。

最後に、今回の研修会で残念だったことがあります。それは九州地区、関西地区の奨学生参加が全くなかったことです。これら地区の研修会はすでに終了しているとはいえ、他の地区の奨学生がどのような発表をするのか、地区ごとの発表にテーマや内容に特徴がありますので、興味を持って参加して欲しいものです。

今回も発表前の抄録集作成に関しては、10月末という超早い時期からの抄録提出もありましたが、一応、1名を除いては期限までの提出でした。文字数200字という約束が守られていないものや、また、内容的に専門外の人にも分かりやすく書かれていない、などみられ、22名分の抄録修正に時間がとられました。抄録作成に際しては、「出しさえすればいい」というのではなく、抄録は発表の全てを表しているもの、ということを考えて欲しいものです。

ということで、2日間ともに16時、無事終了となりました。お疲れさまでした。

参加役員：伊達理事長、田中事務局長、岡本常任理事（教育指導担当）、小田部理事（教育指導担当）、野中理事（関西担当理事）および八並理事（教育指導担当、4日のみ）
奨学生参加者：関東地区奨学生全員

(岡本)

研修会に参加しての感想

東京大学教育学部教育心理学コース3年 蒲池 海斗

今回は3度目となる研修会でしたが、自分の知見の拡大に伴って理解できる内容も増え、より意義深い参加をできている気がいたします。脳機能分析でも使用される機械学習の最適化の原理についての発表や、小説の語り手についての発表内容と現実の人々の「物語り」との類似性など、自分の学習分野の内容が他分野でも共通・類似して現れている様をみると、現代の学問の学際性を感じずにはいられません。もちろん、自分が全く触れてこなかった分野の発表に触れた際には、新分野に触れた喜びや、その分野への興味が沸々

と湧き上がってまいりました。学際的な視点が求められる中で、このようにさまざまな分野に触れ、理解し、その分野と協働する足掛かりを作ることができる機会というのは本当に貴重なものであり、これからの時代を生きる私達にとって非常に有益なものであるなど改めて実感いたしました。

さて、私自身の発表を振り返ると、今回一番苦労したことはテーマ選びであったように思えます。3年目の発表ということで、これまでのような学習内容ではなく、自らが行った研究を紹介したいな、という考えがありました。幸いにも3年になってから既に2つの研究を行っていたのですが、どちらの研究を紹介すべきか、かなり悩みました。一方は量的研究であり、因子分析や回帰分析なども使用した、いかにも研究らしい研究で、もう片方

が今回紹介した、面接法に基づく質的研究でした。テーマ決定の決め手となったのは、紹介したことで聞き手の皆様のためになるのはどちらの研究か、という点です。量的研究の方は図や表を用いた発表構成をすぐに思いつきましたが、質的研究の方がよりメッセージ性の強い提言につながると思い、質的研究を選択しました。その結果言葉で説明する量が増え、何度練習しても30秒の時間超過をし、本番では2分も超えてしまったことは大きな反省点ですが、奨学生から「この分野を知れてよかった」「意義深い提言でした」などのコメントをいただき、自分のテーマ選択は間違っていなかったと感じました。

昨年担当させていただいた感想の中で、「来年は自分の研究の成果を発表する初の機会であり、先輩たちの研究発表に比肩するレベルとなるよう努力したい」と申し上げました。実際に研究を発表してみて、これまでの成果発表との違いを実感し、自分の研究を短時間にまとめることや、皆様にとって有益な発表を行うことの難しさを痛感しました。昨年の自分の意気込みに応えられていないことは悔しいですが、冒頭に述べました通り、折角貴重な機会をいただいているわけですから、皆様の学際的な視点の形成の一助となれるよう、今後も研究発表を通して報恩させていただきたいと思えます。

東京大学理科 I 類 2 年 山本 颯真

12月4日(日)、関東地区研修会の二日目が開催された。自分を含め、11人の所属も学年もバラバラな学生による知識や研究成果の交換が行われ、非常に興味深いものだった。

私自身は理系、特に化学の分野を専攻し、また今後もしていくため、自然と大学ではそれらの分野に偏った講義内容になっている。しかし今回の研修会では、専攻である化学の内容に当てはまるにとどまらず、理系でも自分の全く専攻外である深層学習、生命、光物理などさまざまな分野が揃っており、法や政治などのいわゆる文系の分野でもいくつか面白い話を聞くことができた。

特に修士や学部4年の先輩方はそれぞれの専門研究についてわかりやすく説明されており、印象に残るものが多かった。研究歴の長い修士の先輩方はチャットや対話による質問形式を取り入れた双方向の発表で、より面白い発表にされたり、質問時間での堂々とした受け答えやその知識量からくる、丁寧に適切な回答を行っており、強く印象に残った。

その中でも自分が特に興味を持った発表は、松藤先輩による「電気自動車による電力系統周波数調整システムの開発と経済性分析」だ。電力供給

システムの周波数不安定性について、ご自分で設計された、電気自動車を用いた周波数調整システムを基準とした経済性分析モデルを、英国のものを参考に説明されているのが非常に面白かった。自分のこれまでの知識では、再生可能電源による不安定な電力供給の調整は、変換効率の悪い揚水発電や化石燃料による発電を用いたものなど、どれも経済的・環境保護の側面などに問題を抱えるものしかないと考えていたが、今回の発表で、社会での実用可能なレベルのクリーンな需給調整システムの存在を知り、自分の発表にとっても新しい観点となった。

自分の発表は、まだ学部2年で研究が始まっていないこともあり、現在のエネルギー・環境的な問題を、水素およびアンモニアでの化石燃料の代替を中心として簡単な熱化学を通して考えるという、今回の発表群の中では初歩的なレベルだったが、いくつか質問もいただき、自分にとっても有意義な発表になったと思う。ただし、発表の時間配分を誤ってしまい、メインテーマである化石燃料とのエネルギー効率比較、実用上の問題や展望の説明が十分に出来ずに終わってしまったのが失敗した点でもある。

総合して今回の研修もさまざまな分野の発表が聞けてとても学びになったし、今後のプレゼンテーション技術向上のモチベーションも高まった。

東京大学理科 I 類 2 年 仲西 優貴

12月3、4日に開催された関東地区研修会に参加させていただきました。今回は2回目の参加であり、「最適化について」というテーマで発表をさせていただきました。近いテーマの先輩方がいらっしまったため、とても緊張しましたが、拙い私の発表に対してとても参考になる疑問提示やアドバイスをいただき、今後の研究に活かせる、とても有意義な発表になったと考えております。

さて、今回の研修会の中で、特に印象的であった発表について私の考えたところを述べさせていただきます。まず吉清さんの「Computation-in-Memoryにおける不揮発性メモリ書き込み誤差による推論精度劣化の補償」という発表についてです。発表内容はとても高度で、全て理解できたとは言いがたいのですが、実際に役に立つ研究内容であると感じ、また発表の仕方やスライドも工夫されていたため、とても参考になりました。私は機械学習に興味があつて最適化について発表したのですが、吉清さんの修論の内容でもある今回の発表を聞かせていただいたことで、自分の知識や経験の足りない部分や目指すところを認識できたという点においても、多くを学ばせていただきました。

次に佐々木さんの「海外から見た日本～フィリピン滞在記～」という発表についてです。佐々木さんがフィリピンで1ヶ月ほど過ごされた中で、日本に対して考えられたことをお聞きして、私は海外にはほとんど行ったことがなくて、グローバルな考え方ができていないことを認識することができました。今後は留学を視野に入れながら、単に勉強するのではなくて、それが日本という国の中でどのように生かされていくのかを想像しながら学んでいきたいと思います。

最後に今回の自分の発表を振り返りたいと思います。小田部先生には、私が多くのスライドを用意していたことがよかったこととして取り上げていただきましたが、これに関しては話そうとしていたことを全て話しきれなかったということで、発表時のタイムマネジメントを今後の反省点にしたいと考えています。また、今回の私の発表では、自分で最適化の手法を実装するという面と、歴史的にどのような手法が考案されていたのかを紹介する面があったのですが、野中先生に指摘していただいたように、これまでの研究についてわかりやすくまとめる工夫が必要だったと反省しております。来年度の研修会での発表では、これらの反省を活かして、今回の発表を発展させて伝えることができれば良いと考えております。

東京大学法学部3年 渡邊 蒼生

今年度の関東地区研修会の冒頭では伊達理事長より、日本の論文引用数が減っていることを挙げ、奨学生は一層研究に励んで欲しい旨、今回の研修会を日頃の研究の成果の発表の場として欲しい旨が伝えられた。2日間の研修会を通じ、発表は学部1年から修士2年まで総勢22名に渡り、文系、理系の垣根を越え、個性豊かな発表が多く見られた。

私の発表では、ゼミで参加した交渉コンペ(英語ディベート)の経験を通じて実感した「交渉学」の、日本での活性化の必要性について発表した。Win-winやBATNA(交渉相手から提示された選択肢以外の最善の代替案)といった交渉の基本的なスキルについて、実際のコンペの問題を使いながらなるべく分かりやすい説明を心掛けた。発表後の感想では、聞き慣れない「交渉学」というアメリカ発祥の学問について、様々な人が興味深く発表を聴いてくれたことが感じられた。また、質疑応答では関東地区の野中理事より、大学生のみならず、ビジネスの場で日々交渉を実践している社会人にとっても、「交渉学」という学問として交渉の技術を学ぶことは有用なのではないかという確かなコメントを頂いた。

他の奨学生の発表を聞いて特に印象に残ったのは、修士課程に在籍するベテランの先輩方が率

先して後輩の模範となる素晴らしい発表をしていた点である。黒田奨学会の研修会では年次が上の奨学生から発表の機会を与えられる。両日共にトップバッターとして行われたこれらの発表は、後輩の模範となる点が多く含まれていた。まず1つ目は、発表の双方向性である。スライドショーでの発表は一方的になる傾向があるが、チャットを利用したり、クイズを実施したりすることで発表に双方向性が生まれ、内容により惹きつけられた。2つ目は理系の専門知識を誰にでも分かる言葉で説明する工夫である。難しい内容を、専門知識を持たない人に理解させることができるという能力は、どれだけ自分の専門分野に精通しているかということを示しているだろう。私も今年で3回目の発表となったが、発表内容を誰にでも分かるように説明することの難しさを毎年感じている。法学部に在籍する私にとって馴染みがない理系の分野でも、ある程度内容を理解し、興味深く聞くことができたのは、先輩方の説明能力の高さ故だろう。このように、後輩が先輩を手本にする形で研究発表のスキルが受け継がれていくことが黒田奨学会の良さなのだと強く感じた。

公益財団法人黒田奨学会に対する寄付御礼 および 重ねてのお願い

公益財団法人黒田奨学会は、旧筑前藩主・黒田家から出資された基金によって1915年より107年間にわたり、旧筑前領内出身の学生に対して奨学金の給付を続けてまいりました。

奨学金給付の原資は、黒田家から寄贈された基金及び土地の資産運用益とOB・OG、黒田家関係者、当奨学会への理解者からの寄付金により成り立っており、頂いた寄付金は奨学会の基本財産に繰り入れて基本財産充実を図りながら、その運用益を奨学生の奨学金に充ててまいりました。

公益財団法人にとっては、個人からの寄付は一定条件のもと、「個人寄付者の税額控除認定法人」として、所得控除または税額控除（税金分から控除）のどちらかを選択できることとなり、非常に有益なものとなるのですが、この一定条件として、『三千元以上の寄付者が、過去5年にわたり平均して70名以上いる事』が求められています。つまり、寄付される方の述べ総数が5年間で350名以上であり、その後も70名以上の方が毎年連続して寄付して頂ければ税控除が適用され、さらには寄付された方に対しても税控除特典*注が適用されることになっています。

平成30年度はお陰様で120名の方々から計96万7千円の御寄付を頂くことができました。

上記の税控除の認定申請の条件が整ったことから、政府に対して「個人寄付者の税額控除認定法人」の申請を行った結果、**令和元年10月8日付けで無事に認可を取得することができました。これによって令和6年10月7日までは税控除認定法人の資格を維持することができます。**

ちなみに、令和4年度においては71名の方々から計105万4千円近くの御寄付を頂いております。

黒田奨学会の理念に御賛同頂き、これまで、奨学金の充実のためにご寄付戴きました黒田奨学会関係者の皆様には心よりお礼申し上げます。誠にありがとうございました。

引き続き、御協力のほど、よろしくお願ひいたします。

なお、申込書は会報とじ込みのもの、またはHPよりダウンロードできます。

黒田奨学会出身の郷土の若者達が将来、世界や日本の社会で広く活躍する為の投資とお考え頂き、今後も募集への御理解と御協力を賜りますよう、重ねてお願ひする次第です。

公益財団法人・黒田奨学会理事長 伊達 健太郎

*注

公益財団法人である当奨学会への個人寄付は、寄付金額から2,000円を差し引いた額が確定申告で「所得控除」として扱われますが、「税額控除認定法人」に認可されると、確定申告では「税額控除」か「所得控除」かのいずれかを選択することができます。一般的には、「税額控除(40%)」の方が「所得控除(10-45%)」より控除額(税金の還付額)が多くなります。また、個人寄付者が福岡県在住の場合は住民税(県民税・市町村税)においても、寄付額から2,000円を差し引いた額の10%の控除が受けられますので、場合によっては所得税と住民税を合わせると、個人寄付額の最大 50%弱の還付額を受け取ることが可能となります。(ただし、市民税が控除対象とならない市もあります。)

令和4年度奨学会基金への寄贈者（敬称略、順不同）

令和4年4月11日～令和5年5月10日 （ ）は黒田奨学生OB、OGの卒業年

佐田孝史 (H9)	原悦郎	原口寿子
肥塚善郎 (H8)	伴口曜价	龍正一郎 (R3)
山田公彌	佐田裕 (H46)	安川圭司 (H11)
野崎雄介 (H10)	浪江二衣奈 (R3)	中村義則 (S61)
遠田穂奈美子 (R3)	木村菊子 (H56)	河野清進 (S62)
冬至嶺子亮 (R5)	寺嶋秀司 (H56)	吉清秦生 (R5)
松藤圭亮 (R5)	末田美和 (R5)	金子周平 (S42)
東寺裕康奈 (R5)	今藤恭平 (R5)	矢ヶ部稜 (R5)
高瀬佳奈 (R5)		中田蓮太郎 (R5)
石津宗久 (H1)		今藤久夫
		その他 匿名希望 15名

令和5年度 黒田奨学会行事予定

(令和5年3月21日現在)

月	日	曜日	時間	内 容
4	10	月		4月分奨学金給付
	14	金		「進級を証明できる書類」提出締切 (※2年生以上、締切厳守)
	16	日		光雲神社春季大祭
5	10	水		5月分奨学金給付
6	3	土	9:00	(前期) 第1回九州地区研修会・面談
	9	金		6月分奨学金給付 2024年度新奨学生特別募集中止の案内状発送
	12	月	19:00	第1回定例理事会
	16	金		瑞藤会会報94号発行
	28	水	19:00 20:00	定時評議員会 (議題: 決算報告) 第1回臨時理事会
7	8	土	9:00	(前期) 第2回九州地区研修会・面談
	10	月		7月分奨学金給付
8	2	水	11:00	長政公401回忌法要 (崇福寺)
	10	木		8月分奨学金給付
	12	土		事務局夏季休暇 (12~16日)
9	2	土	9:00	関西地区研修会 (大阪ガーデンパレス)
	4	月		2024年一般募集要項その他書類一式各校発送
	8	金		9月分奨学金給付
	11	月		前期成績表・報告書・GPA提出 ※9/11受付開始~9/22締切厳守
10	15	金		九大・九工大特定枠募集推薦依頼書発送
	1	日		光雲神社秋季大祭
	7	土	9:00	(後期) 第1回九州地区研修会・面談
11	10	火		10月分奨学金給付
	11	土	9:00	(後期) 第2回九州地区研修会・面談
12	2	土	9:00	関東地区研修会 (2~3日、グランドヒル市ヶ谷)
	8	金		12月分奨学金給付
	13	水		瑞藤会会報95号発行
	29	金		事務局冬季休暇 (29~1/5日)
2024.1	10	水		事務局業務開始日、1月分奨学金給付
	19	金		2024年度九大・九工大 大学院特定枠学内申請締切
	31	水		2024年度新奨学生 (一般募集) 願書受付締切 (必着)
2	9	金		2月分奨学金給付
			19:00	2024年度新奨学生 (一般募集) 書類選考会
	12	月	建国記念日	忠之・光之・治高公法要 (東長寺) 忠之公372回忌
	14	水		第108期瑞藤会総会案内発送
3	16			2024年度新奨学生 (一般募集) 書類選考結果発送
	2	土	9:00	2024年度新奨学生 (一般募集) 面接選考会
	3	日	9:00	2024年度新奨学生 (特定枠募集) 面接選考会
	4	月	19:00	第2回定例理事会 (議題: 奨学生選考、2025年度予算)
	6	水		2024年度新奨学生 (一般募集、特定枠募集) 可否通知発送
	8	金		3月分奨学金給付
	15	金		後期成績表・報告書・GPA提出 ※3/15受付開始~3/29締切厳守
	19	火		如水公421回忌法要 (崇福寺)
	20	水	13:00 17:30	春分の日 2024年度奨学生総会・入学式 2023年度瑞藤会総会・卒業記念会

編集後記

瑞藤会会報93号「黒田奨学会OGからの海外便り」において、瑞藤会OGの安東氏の名前および勤務先に誤りがありましたので訂正してお詫び申し上げます。

安東 実咲

2022年現在：デロイト・トウシュ・トーマツ勤務

令和5年度の瑞藤会会報94号を出版できる段階となり、ほっと一息している所です。

この3月から6月にかけて、黒田奨学会事務局は多忙を極めており、私自身もあまり経験したことのないほど、もろもろの作業に追われ、心身ともに疲労困憊という状況の中、

会報発行準備になかなか取り掛かれず、発行日に間に合うかどうか不安を感じていましたが、新原理事のお手伝いのおかげで無事発行することができました。感謝！です。

(岡本)

偶数号は総裁の黒田長高様の巻頭言から始まるのですが、今号は長高様のご負担にならないよう、そしてあまり堅苦しくないようなもの、ということで近況報告をお願いいたしました。例年であれば、歴史的な全国のイベントにご招待され、御多忙な日々を送られる長高様ですが、コロナ禍の中ではその数も少なくなり、逆に淋しい思いをされていたのではないのでしょうか。

その中で、令和5年3月の黒田奨学会入学記念式・卒業記念式へご出席頂き、我々も久しぶりにお元気な顔を拝見でき、また、一緒に奨学生たちを祝うことができたこと、大きな喜びを感じました。令和5年度は7月の博多祇園山笠にも奥方様や絢子様ご夫妻とご一家に来福されるそうですので、次回の会報にはトピックスとしてお知らせする予定です。

(岡本)

黒田奨学会を卒業される方々、そして新しく黒田奨学生になられた方々からの言葉を編集していると、それぞれの言葉の中に将来への意気込み、熱意が感じられ、黒田奨学会の理念である「社会貢献」、間違いなく発揮し達成してくれるものと改めて期待しております。

(岡本)

今回、編集のお手伝いをさせていただきました理事の新原です。瑞藤会総会はまだですが、ようやく卒業記念式や新奨学生の入会式を開催することができました。本奨学会の良いところは、奨学金を振り込むだけではなく、役員と奨学生、とくに奨学生どうしが触れ合う機会を持つことにあると考えていますので、とても喜ばしく思っています（個人的なことですが、卒業記念式で高校時に担任した生徒にも久々に会えて楽しい時間を過ごさせてもらいました）。今年度は、研修会についても、ZOOMではなく対面式で行い、懇親会を開いてざっくばらんな話などもできれば、と思っています。また、学会や留学、各大学の行事なども活発になると思いますので、積極的に参加し、あわせて内容を報告してください。会報を作成する立場として大変助かるだけでなく、他の奨学生にとってもいい刺激になると思いますので、是非、よろしく願います。

(新原)

コロナが5類に引き下げられ、いろんな規制も解除されて博多の街も賑わいを取り戻してきていますが、やはり後期高齢者で医療系に携わった身としては未だに心配なところがあります。ワクチン接種もためらうことなく6回目を済ませたところです。おかげで6月3日開催の前期第1回九州地区研修会、3年ぶりに対面式で行いましたが、安心感が強まり、研修後の懇親会でも奨学生たちとの会話は非常に盛り上がった感がありました。このまま、コロナ感染が再流行しないよう、祈りながら編集後記を終えることにします。

(岡本)

関東地区研修会・発表抄録集

関東地区研修会 令和4年12月3-4日

1. Computation-in-Memoryにおける不揮発性メモリ書き込み誤差による推論精度劣化の補償

東京大学大学院工学系研究科電気系工学専攻 修士2年
吉清 泰生

ニューラルネットワークモデルの重みを不揮発性メモリに保存し、高速、低消費電力で推論処理を行うComputation-in-Memory回路では、不揮発性メモリの書き込み誤差により推論精度が劣化する。本研究では、エッジデバイス上での部分的な再学習による推論精度の回復を試みて、ショートカット結合に起因するモデルのエラー耐性の差を利用し、エラー耐性の高い層に限って再学習を行った結果、再書き込み後の推論精度を改善し、総書き込み回数を減らすことに成功した。

2. 計算コストの低いバンドギャップ予測法の開発

東京大学理学系研究科物理学専攻 修士2年
塚本 恭平

半導体におけるバンドギャップは、太陽電池や発光素子等の開発で非常に重要な物理量であるが、計算コストが高いというデメリットがある。本研究では計算コストと精度のバランスがとれた方法の開発を目的に、DFTによって計算した誘電率を利用した線形予測モデルを作成した。結果として、その精度はHSE法やMBJ法よりも良くなり、計算時間はHSE法より数倍程度短くなった。今後はデータ数を増やし、より正確な精度の評価を行うことが課題である。

3. FW-MAVのための新たな推力測定手法の提案

長岡技術科学大学大学院機械創造工学専攻 修士1年
東 遼晴

FW-MAVとは昆虫の羽ばたきを模倣したドローンであり、他のドローンと比べ、操縦面や安全面などが優れているため注目されている。このドローンを開発する上で、ドローンの性能値として推力は重要な要素となる。しかし、現在採用している推力測定手法は、ホバリング状態での計測となり、飛行している状態と異なる。そこで、今回は飛行時に近い状態で推力の測定を可能にすることを目的としており、実践している2つの推力測定手法について報告する。

4. 小説の「語り手」— 芥川龍之介『羅生門』の考察

東京大学文学部人文学科日本語日本文学専修4年
井手 那幹

小説の世界の中の人物や出来事についての情報は、その小説の「語り手」による「語り」（簡単に言えば本文）を通して我々読者に届きます。つまり我々は【「語り手」によって語られた作品世界】を見ていると言えます。ではその世界は【本当の作品世界】とどう違うのでしょうか。今回の発表では、「語り手」と「作品世界」の関係について説明した後、「語り手」を分析することが小説の読解にどう影響を与えるのかを、『羅生門』を例にお話しします。

5. トポロジーとモース理論

東京大学理学部数学科3年
大串 裕紀

トポロジーとは何らかの図形を連続的に変形させても保たれる性質について調べる分野のことであり、そのトポロジー的性質を計算する方法の一つがモース理論です。モース理論は高校の微積分で行った増減表を用いてグラフを書く方法を一般化したようなものですが、関数(スカラー場)の特異点の性質を調べて空間全体のトポロジー的性質を計算する理論です。現在ゼミで行っているこのモース理論について、トポロジーの工学などへの応用例も含めて紹介します。

6. フィリピン滞在記および私的英語力向上法

慶應義塾大学理工学部電気情報工学科3年
佐々木 綾太

私は夏休みに親戚への訪問、語学力の向上を目的にフィリピンに1カ月間、旅行し滞在した。日本とは異なる風景、文化、暮らし、サービス、人間関係、貧富の差、政治、仕事等を経験して、外国から見た日本や逆にフィリピンという国に対して思うことなど、様々な思いがあったのでそれを共有してもらえればと、今回の発表テーマとした。また、帰国した現在もなお、英語力を上げることに意欲的な私の、英語力向上法についても少し触れようと思う。

7. ジレンマから見る児童心理司の特質

東京大学教育学部教育心理学コース3年
蒲池 海斗

虐待関連のニュースが増える中、児童相談所はニュースの報道内容等からマイナスイメージを持たれやすい傾向にある。一方、児童相談所に対しては人手不足の問題を指摘する声もある。これらを踏まえ、その実情を明らかにするために、児童相談所の中でも児童と直接関わることの多い児童心理司に着目して面接法を実施して質的分析を行なった。その結果、児童心理司が抱えているジレンマや職務の特質が明らかになった。

8. 実は難しい！？ 最適な買い物の順番の求め方とは

東京工業大学工学院経営工学系3年
實淵 有佑

皆さんは、いくつもの目的地回る場合にどのような順番で回ればよいか、悩むことはないでしょうか。一見、自分でよく考えたら分かりそうなこの問題でも、厳密に求めようとしたら一筋縄ではいかない。現実には様々な制約があり、数学的知見、論理的思考が必要となる。今回の発表では、現実には体験するような、「いくつも買いたいものがあるときに、店を回る最適な順番」について最適化の過程を説明し、社会問題を数理モデルで解決する面白さを紹介したいと思う。

9. 最適化について

東京大学理科Ⅰ類1年
仲西 優貴

最適化とはさまざまな数理的問題に対して、適切な手法を用いて最適解を求めることであり、信号処理や制御工学のほかに、近年において発展がめざましい機械学習など、多くの分野で用いられています。このようにさまざまな用途があることから分かるように、最適化には多くの問題形式があり、それを解く手法も多岐に渡ります。今回はこの最適化について問題に合わせた解法を考え、機械学習についても考察します。

10. 国際人道法の意義について

東京大学文科Ⅰ類1年
小淵 朝陽

国際人道法とは、国際法の中でも武力紛争における規則の体系のことです。そしてその目的は、武力紛争において人道性を維持し、人命を救い、苦しみを軽減するというものです。しかし、世界には現在も武力紛争において人民が苦しんでいるという状況があります。国際人道法が果たしてどのような意義をもつのかについて、国際人道法の概要説明や赤十字国際委員会との関連、ロシアのウクライナ侵攻という現在進行中の事例等を踏まえ、考察していきます。

11. タンパク質構造解析概論

東京大学理科Ⅲ類1年
山中 心源

ヒトの身体を構成する主要な要素の一つにタンパク質があります。タンパク質の機能は、その構造に大きく影響されます。そのため、構造生命科学という分野では、タンパク質の構造を解明しようとさまざまな研究が行われています。今回は、その代表的な手法であるX線結晶構造解析とクライオ電子顕微鏡構造解析を取り上げ、タンパク質構造解析の意義、及びその流れについて概観していきたいと思います。

12. 深層学習の世界

東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻 修士2年
稲富 翔伍

昨今の深層学習における技術の成長は目覚ましく、私自身、卒論・修論において深層学習を使用しているように、分野によらず重要な技術となっている。今回は、私の土木分野での研究内容である橋梁の部材推定、鋼材腐食予測、博士課程での展望などについて触れながら、深層学習で解決される様々なタスクを紹介し、さらに、深層学習の仕組みや思想（ニューラルネットによる特徴抽出や出力の関数近似）についても概要を説明する。

13. 電気自動車による電力系統周波数調整システムの開発と経済性分析

東京大学大学院工学系研究科電気系工学専攻 修士2年
松藤 圭亮

脱炭素時代には、太陽光・風力のようなインバータ電源の割合が増えることで、電力需給バランスの指標である周波数が不安定化するという課題が生じる。今後普及する電気自動車群を、周波数の変動に応じて高速に充放電制御すれば、周波数を安定化し、より多くの太陽光・風力を電力系統に導入できるとされている。発表では、電気自動車を用いた周波数調整の実験と、英国の周波数調整市場データに基づいた経済性分析の結果を示す。

14. カルタミンの効率的な全合成を目指して—C-グリコシル化による実験方法の解説—

東京工業大学理学院化学系4年
山根 奏太郎

カルタミンは、ベニバナから抽出される赤色の色素成分であり、今までに構造決定に関する多くの研究が行われてきました。そのような中で、当研究室では初の全合成を達成し、その構造を決定することに成功しています。しかし、その合成法にはまだまだ課題が残されており、私はそれらの解決のため、日々実験に取り組んでいます。今回は、実際に私が改善を行ったC-グリコシル化について、反応操作と共に詳しく解説したいと思います。

15. ミトコンドリア病

東京農工大学工学部生命工学科4年
朽網 桃香

ミトコンドリアは主にエネルギー、つまりATPを作る働きをしており、ATPの大半はミトコンドリア内に存在する呼吸鎖複合体と呼ばれるタンパク質の集合体で作られています。もしも、呼吸鎖複合体のタンパク質を作るDNAが変異していたら、また、そのような大切な働きを持つミトコンドリアのDNAが変異していたら、どうなるのでしょうか。今回はミトコンドリア病について、そしてミトコンドリア病に関連した私の研究についてもお話しさせていただきます。

16. 里帰りすらできない日本人 — 日朝首脳会談から20年 —

慶應義塾大学法学部政治学科1年
大場 雅翔

拉致・核ミサイルと様々な問題を抱える日朝関係だが、報道に埋もれた約7000人の日本人がいる。いわゆる日本人妻問題だ。拉致問題と違って、在日朝鮮人の夫とともに自主的に渡ったという点から自己責任とされることもある。果たして、これは自己責任の問題だろうか、政府の意図やマスコミの報道に何か起因するのではないか、大学生約100人を対象にしたアンケートや大学での磯崎教授の講義を踏まえて研究を行った。日朝が抱える問題、報道の在り方、自己責任論について論じる。

17. 性格の不一致と離婚事由

一橋大学法学部3年
加治 遼

司法統計によると、離婚への一番の動機となっているのは夫と妻共に相手との性格が合わないことだという。その一

方で、民法は性格の不一致を離婚の原因として明記していない。今回の発表では、まず実際の離婚手続の流れ及び離婚の原因を記した民法770条1項を簡潔に説明し、次にこの問題に関する裁判例を整理する。そして性格の不一致が離婚原因として認められるか、認められる場合にはその基準が何になるかを検討する。

18. 偏光とファラデー効果

東京大学工学部物理工学科3年
松田 仁

ファラデー効果とは、磁場がかかった物質中を直線偏光が透過すると偏光角が磁場に比例して変化する現象である。コイルを巻いた石英にレーザーを照射し、コイルに流す電流を変化させ、ファラデー効果を観測した。また、得られた実験データからこの現象を特徴づけるベルデ定数を計算し、文献値と比較した。物理学を専攻していない方にも伝わるよう、基礎的な知識の補足をしつつ、測定手法や理論的背景を説明し、実験の結果について述べる。

19. ビジネスにおける交渉と教育現場での実践としての交渉コンペ

東京大学法学部3年
渡邊 蒼生

ビジネスに限らず、外交交渉から日々の人間関係まで私たちの生活は大小の「交渉」によって成り立っている。しかし交渉術は社会において必要なスキルの一つでありながら大学までの教育においてそれらを学ぶ機会は少ない。私は大学3年次に所属したゼミで英語チームのリーダーとして交渉コンペに出場し、ビジネスにおける模擬交渉を経験した。今回の発表ではコンペを通じて私が学んだことを中心に交渉の基本と魅力をお伝えする。

20. 炭素フリーエネルギーキャリア候補の化石燃料代替性

東京大学理科I類1年
山本 颯真

【目的】化石燃料代替物質としての水素とアンモニアの性能に関して比較検討する。【方法】それぞれの燃焼エンタルピー変化から重量および体積あたりのエネルギー密度を計算し、化石燃料と比較する。【結果】体積および重量当たりの燃焼エネルギーはいずれも化石燃料に比べて有意に低いことが分かった。【考察】水素およびアンモニアは建物や工場の代替燃料としては有用であるが、自動車や航空機の代替燃料としては化石燃料に比べて性能が大きく劣ると思われる。

21. 宇宙空間における天体間距離の測り方 — 宇宙ものさしを作る —

東京大学教養学部理科I類1年
方倉 颯馬

つい先日、約400年ぶりの天王星食と月食の共演がみられた。このような天体ショーは、現代においても多くの人々を魅惑している。これほど私たちにとって身近な存在である天体は、一体地球からどれほど遠くにあるのだろうか。もちろん、直接ものさしを当てての距離計測はできない。この発表では、物理法則や数式を用い、極めて身近な対象を科学的に考え、その面白さを伝えることを目的とし、距離計測の方法を纏め、科学の発展のあり方まで考察を発展させる。

22. 世代的アイデンティティとイデオロギー：「ジェネレーション・レフト」を例に

東京大学教養学部文科II類1年
広田 瑞貴

いわゆるZ世代は、欧米では左派的／リベラルな価値観をもつ傾向が強い一方、日本では比較的保守的であるとされる。この現象を例に、イデオロギーと世代の結びつきについて知見を得ることを目的に研究を行った。本発表では、この現象が実際にある程度見られ、また歴史的な要因により形成されてきたことを確認したうえで、アイデンティティ研究の観点から、世代に基づくアイデンティティが政治的な価値観に影響を与えることを示唆する。